

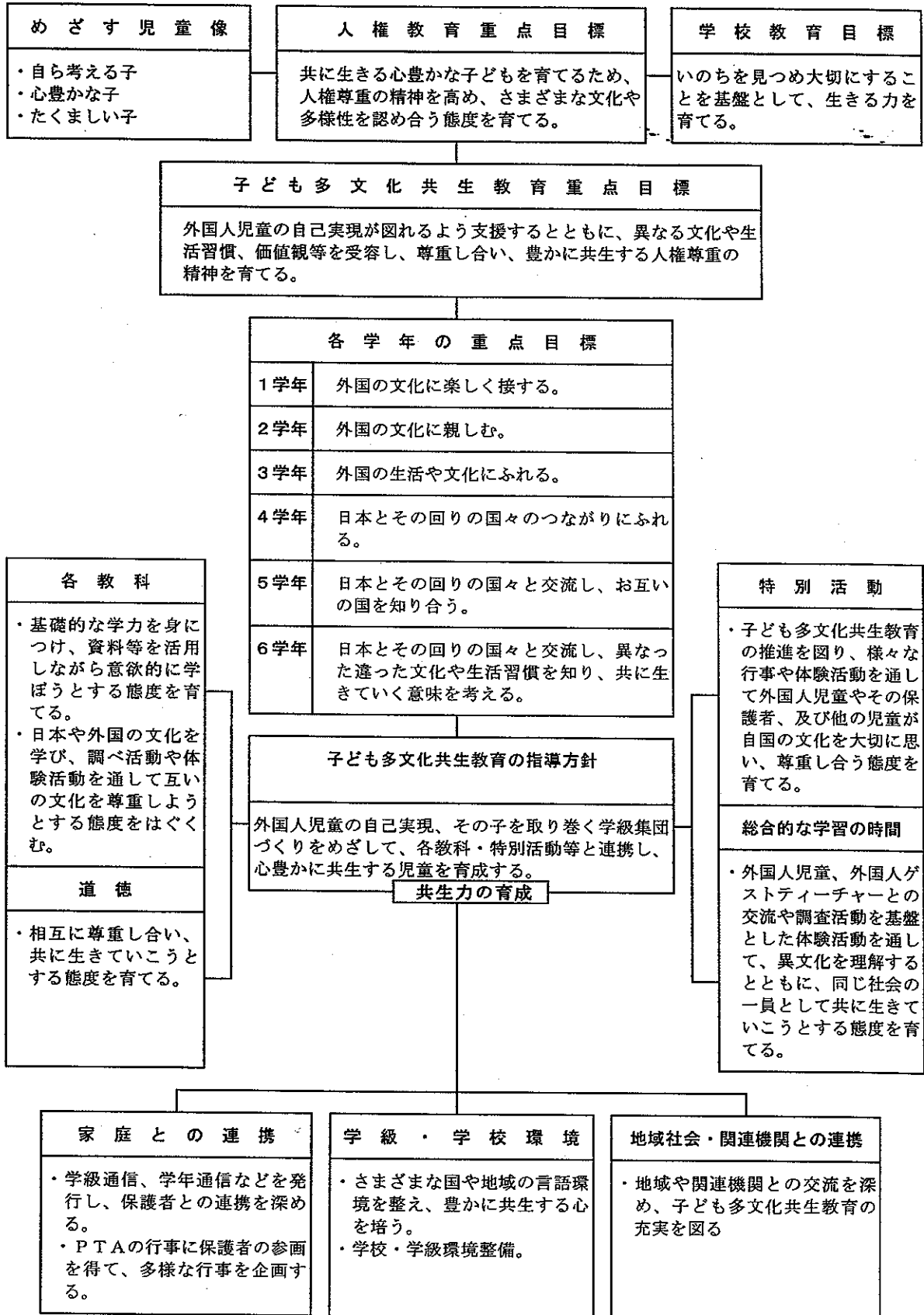
# 子ども多文化共生フロンティア校実践事例集

# 目 次

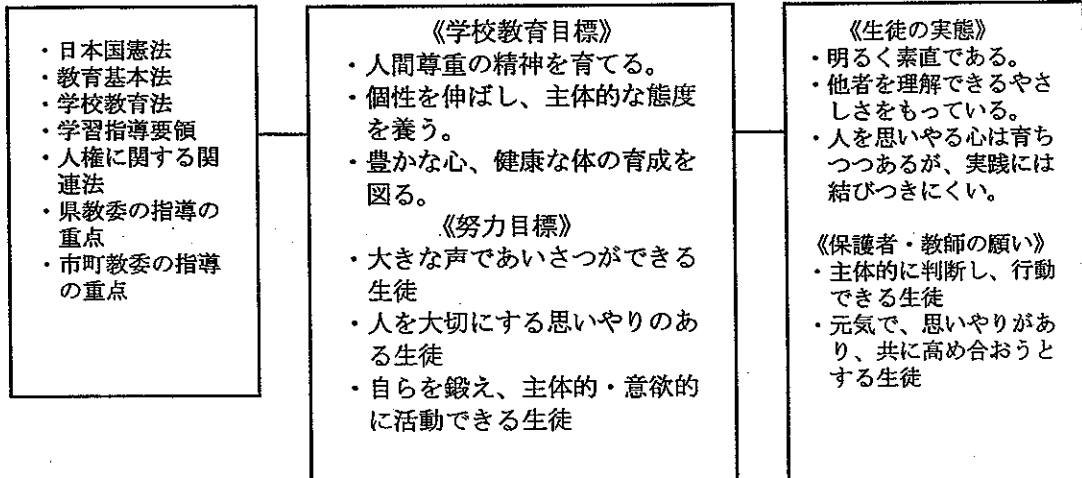
I 子ども多文化共生教育全体計画(例)	
1 小学校	3
2 中学校	4
II 子ども多文化共生教育年間指導計画	
1 小学校(1年～6年)	5
2 中学校(1年～3年)	11
III 教科における取組	
1 国語	14
2 社会	18
3 生活	20
4 音楽	22
5 美術	24
6 技術・家庭	26
7 英語	28
8 選択教科(社会・数学)	30
IV 道徳の時間における取組	34
V 特別活動における取組	38
VI 総合的な学習の時間における取組	46
VII 小・中学校の連携による取組	54
VIII 家庭や地域と連携した取組	56
IX NGO/NPO 等関係機関・団体と連携した取組	64
X その他	68
子ども多文化共生フロンティア校実践事例集作成委員一覧	74

# I 子ども多文化共生教育全体計画（例）

## 1 小学校



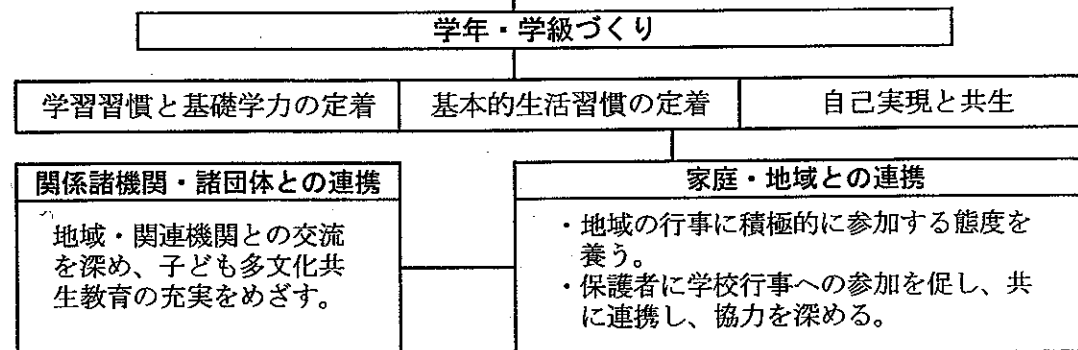
## 2 中学校



子ども多文化共生教育の目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間尊重の精神を基盤として、人権感覚を高め、豊かに共生する心をはぐくむ。</li> <li>・異文化に関心を持ち、地球的視野から互いのよさを認めあい共生する力を育てる。</li> </ul>	

学年別重点目標	
1 学年	望ましい仲間づくりを通して人権意識を育て、豊かに共生する心を養う。
2 学年	相手を思いやる共生の心、態度を育てる。
3 学年	人権を尊重し、共に生きる社会の現実をめざす。

各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
1 基礎・基本の定着を図る。 2 自ら課題を見つけ、解決していく力を育てる。	1 人間尊重の精神を基盤とし人権意識を育てる。 2 日常生活の中で、道徳的判断力・心情・態度を養う。	1 学校生活におけるルールを学び、責任ある行動を身につける。 2 自主的・自治的な生活態度の育成を図るとともに、生徒会活動の活性化をめざす。	1 お互いの個性を認めあい、正しく生きていく力を養う。 2 地域のゲストティーチャーを招き、異文化理解・国際理解を深める。



## Ⅱ 子ども多文化共生教育年間指導計画（例）

### 1 小学校 (1) 小学校1年

月	教 科		道 徳	特別活動
	生 活 科	そ の 他		
4				
5	餃子の試食会		自分らしく（ほほえみ）	
6		音 ぶんぶんぶん（ボヘミア）		
7		国 大きなかぶ（ロシア）	ともだち大すき（ほほえみ）	
9		国 カタカナ 音 まらきらぼし（フランス）	とらよりこわいくしがき（サラム） ※サラム（韓国の教科書）	[学活] いろいろなことばであらう
10	世界の人たち（世界にはどんな人たちがいるのかな）		動物の鳴き声（サラム）	[学校行事] ベトナム、コリア フェスティバル（アジア）
11	とんだちのくにあそびをしよう ・ ベトナムのあそびをひらこう ・ あそびランドをひらこう （ベトナム）P33参照		ファイリピンと出会おう （国土社）P33参照	[学活] かんこくことばであらう （韓国）
12	できるよ（お正月の遊び、昔の遊びをしよう）（日本）			[学活] ALTといつしよに
1				
2		音 どんな場面がうかんだかな		[学活] ALTといつしよに
3		国 おてがみ 音 いろいろな音が聞こえるよ		

ゴシック体：実践事例を掲載

(2) 小学校2年

月	教 科		道徳	特別活動
	生 活 科	そ の 他		
4				
5		③ いろいろな国の言葉で歌おう (遊び歌)		[学活] ALTとっしよに (各学期2回程度)
6		④ カタカナで書く言葉		
7		④ 図書室へ行く		
9	中国の学校との交流	③ トルコ行進曲(トルコ)	みんな友だち(ともだち)	[学活] いろいろな国のことば であいさつしよう
10		④ 絵の交流(中国)	世界の人々(評論社) P33参照	[学校行事] ベトナム、コリア フェスティバル(アジア)
11	広げよう世界の輪・和 (遊び交流をしよう)		パクさんといっしよに (ほほえみ)	
12	ともだちの国のあそびをしよう 韓国・朝鮮や中国のあそびをしよう P19参照			[学活] いろいろな国
1				
2	茶道体験			
3			モンゴルのことを知ろう (スーホの白い馬 より)	

ゴシック体：実践事例を掲載

(3) 小学校3年

月	教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
4				
5	⑤ 茶つみ (日本)	私の名前 (ともだち)	[学活] ALTといっしょに (各学期2回程度)	
6		だいこんとにんじん(ほほえみ)		韓国・朝鮮を知ろう！伝えよう！ P45参照
7	⑥ 三年とうげ (韓国)			
9	⑧ 品物はどこから うさぎ (日本)	いろいろな国のあいさつ (あゆみ)		
10		とんちこぞう万徳(にんげん) 世界の文化ウォッチング (ほほえみ)	[学校行事] ベトナム、コリア フェスティバル	アジアの文化をさぐる (アジアの祭りを調べよう)
11	⑨ バンプーダンスを楽しもう (フィリピン)	私たちの国の文化に親しもう (心のノート)		アジアの文化をさぐる (アジアの祭りを表現しよう)
12				まちな名人に弟子入りしよう ・ベトナム料理をつくろう
1	⑩ 書き初め			
2		こんな「ちがいは」(ほほえみ)		
3				

ゴシック体：実践事例を掲載

(4) 小学校 4 年

月	教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
4	⑤ さくら (日本) ・子どもの世界 (学年歌)		[学活] ALTといっしょに (各学期2回程度)	
5	⑤ いろいろな木の実 ⑤ 漢字の音と訓	島ひきおに (ほほえみ)	[クラブ] 英語に親しもう (各 学期2回程度) P37 参照	
6	⑤ 郷土の音楽 ⑤ こきりこぶし (日本)			
7	⑤ 中国の文字を知ろう P13参照			
9		ハルモニの手紙 (オッケトンム)	[学活] いろいろな文字で書いてみよう (ソング、ロマ、辭)	もっと知りたいアジアの国 (日本に近い国はどこだろう)
10	⑤ ローマ字と日本語 ⑤ アジアのわらい	ぼくの自転車 (友だち)	[学校行事] ベトナム、コリア フェスティバル	もっと知りたいアジアの国 (アジアの国の文化を知ろう)
11	⑤ フロムアジア ⑤ 一弦琴づくり			
12				
1	⑤ 世界とつながるわたしたちのくらし (姉妹都市)		[クラブ] 外国料理に挑戦 P37参照	住みよい町ってどんな町 (バリア フリー キヤップハンデンディー体験)
2	⑤ 郷土を開く (渡来人行基) ⑤ おどろう楽しいボーレチケ			住みよい町ってどんな町 (いろいろの人と交流しよう)
3		ロサンゼルスからの手紙 (友だち) トウイちゃん came (ほほえみ)		まちのこんな人に出会ったよ

ゴシック体：実践事例を掲載



(5) 小学校5年

月	教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
4	①(社) 日本とはが国、地域、地形、気候 ②(音) キリマンジャロ (ケニア)			
5	①(社) 沖縄の歴史と文化			
6	①(国) 和語、漢語、外来語 ②(音) アジアの音楽、アリアン、まつり歌	もしも、世界がひとつの村なら (ほほえみ)	[クラブ] 英語に親しもう (各学期2回程度) P37参照	
7	①(音) おはやし子守歌 (日本)		[学活] ALTとっしよに (各学期1回程度)	
9	①(音) 北海盆歌 (日本)	私の名前はボンソー (ともたち)		
10	①(社) 輸入食品について 私達の食生活と食料生産		[学校行事] ベトナム、コリア、タイ	サワディー (こんにちは) タイ に友だちができた P47参照
11	①(家) 作っておいしく食べよう ②(音) ケチャを染しもう・アジアの音楽に親しもう			
12	①(社) どこで作られたこの製品 ②(音) 冬げしき、三味線体験			
1	①(国) 日本語を考える、書き初め ②(音) 日本の歌曲		[クラブ] 外国料理に挑戦 P37参照	国際理解教育(タイとの交流、貿易問題、景観問題など) こんなな友だちが大切、茶道体験
2	①(社) 国土の開発と自然	クリスティーの言葉(道徳) ひとつになったひびき(国語)		アジアクッキング
3	①(社) 自然を守る運動 ②(音) 世界の国歌			

ゴシック体：実践事例を掲載

(6) 小学校6年

月	教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
4	(社) 15年戦争			平和学習・15年戦争 ・ヒロシマ修学旅行
5	(国) 短歌と俳句作り (音) おぼる月夜		[学活] ALTとつしよに (各学期1回程度)	
6	(社) 遺跡見学、渡来人の活躍 (音) 世界の国々の音楽	ペルーはないでいる (6年生の道徳)	[クラブ] 英語に親しもう (各学期2回程度) P37参照	タイとの交流 (修学旅行の報 告)
7	(社) 元寇 (音) こげまやケル、アソデ、アソの歌、言葉で世界の旅	フロリダからのかぜ(ほほえみ)		タイとの交流(グリーンテイングカードを 送ろう、いつまでも友だちでいようね)
9	(社) 朝鮮通信使 (体) マイムマイム (イスラエル)			地球の叫び・世界のMOTTAINAI について調べよう
10	(社) 明治維新から世界の中の日本 (音) 箱根八里、赤とんぼ	共に生きる社会 (友だち)	[学校行事] ベトナム、コリアエステイバ <sup>ル</sup>	
11	(国) 絵の交流 (中国、タイ) (音) ふるさと・世界の音楽(親しみ)	オリニマダン (あゆみ)		世界の中の日本 (日本とのつなが りの深い国、世界の平和に向けて)
12	(国) 書き初めに向けて (音) 三味線体験	心は世界を結ぶ (心のノート)		世界の中の日本 (地球の環境 を守る取り組みを知ろう)
1	(音) 新の海 (社) 基本人權の尊重 (国) 書き初め	心は世界を結ぶ (心のノート)	[クラブ] 外国料理に挑戦 P37参照	茶道体験
2	(保) ストツプザ薬物 (社) 日本とつながりの深い国々	日本でくらす外国人 (ほほえみ)		
3	(保) エイズについて (社) 國連の働きと日本の役割	私のネパール (6年生の道徳) 宇宙船地球号発進します (心のノート)		世界の国歌 (国旗、国歌につ いて知ろう)

ゴシック体：実践事例を掲載

2 中学校  
(1) 中学校 1 年

月	教 科	道 徳	特 別 活 動	総合的な学習の時間
4	④ 国語・墨・硯・紙のできるまで	望ましい生活習慣・仲間づくり	[学校行事] 校外学習	
5	④ 古典と出会う(漢文を音読しよう)	差別と人権問題(人権作文)	[学活] 人権作文コンクール	※Spring Bank Holiday (国民の休日)
6	④ 世界の人びとの暮らしと地域(衣食住でみる世界の人々)		[学校行事] 多文化ふれあいフェスティバル	
7	④ 世界の国を紹介するパンフレットを作ってみよう(課題学習)	やさしすぎる日本人(あすを生きる) P 35 参照		・平和への願い(ゲストティーチャーを招いての講演会) ※お別れパーティ
9	④ 四則計算(イギリスの加法減法)	「一番欲しいものは何」(きらめき)	[学校行事] 体育大会	※はじめまして(自国の紹介)
10	④ 星座名の由来(ギリシヤ) ④ 南極に穴が開いた!	人権の歴史	[学校行事] 合唱コンクール	※日本で不思議に思うこと
11	④ Language Games.(言葉遊びを通して言葉への関心を深める)		[学校行事] 文化祭	※アメリカに渡った日本人 P 49 参照
12	④ Ming's House.(中国茶を飲む)		[学活] 私の進路	※Christmas Day(クリスマス) ※多文化講座で異文化体験 P51 参照
1	④ ゲルニカ(いろいろな思いを表現しよう)(スペイン)	「コヒヤン エポム」(友だち)	[学活] 震災に学ぶ	※日本の正月
2	④ 郷土の音楽(日本) ④ 日本の楽器の響き			※イギリスの中学生
3	④ アジアの諸民族の音楽 ④ 郷土料理・外国の料理		[学活] 1年間をふりかえって	※Good Friday-Easter Monday(イースター)

※ 印は、ALTとの活動

ゴシック体：実践事例を掲載

(2) 中学校2年

月	教 科	道 徳	特 別 活 動	総合的な学習の時間
4	④国 短歌・川柳	望ましい生活習慣・仲間づくり	[学校行事] 校外学習	
5	④国 文字の秘密を探ろう(生き続ける古典・書写) ④社 稲作のはじまり(稲作伝来の方法と稲と共に伝わったこと)	差別と人権問題(人権作文)	[学活] 人権作文コンクール	※May day Holiday (メーデー)
6			[学校行事] 多文化ふれあいフェスティバル	
7	④社 近代日本の社会と文化 ④英 うちわにメッセージをこめて P 23 参照 ④数 和算(鶴亀算)に親しむ	異文化理解 「いつもの場所から」(きらめき) P 35 参照 「I am Korean」(友だち)		※平和への願い (ゲストティーチャーを招いての講演会) ※お別れパーティー ※はじめまして(自国の紹介)
9			[学校行事] 体育大会	
10	④理 台風の呼び名 ④技 環境や資源に配慮した衣服について P 25 参照 ④英 You Look Great! (ほめ言葉に表れた文化の違い)	人権の歴史	[学校行事] 合唱コンクール	※日本で不思議に思うこと ・ミニ講演会「多文化交流学習会」
11			[学校行事] 文化祭	※Remembrance Day (終戦記念日)
12	④英 A Trip Australia. (オーストラリア) 選択④社 身近な生活から世界の国を調べよう P 29 参照 ④音 日本の民謡 ④英 共生について考えよう P 27 参照		[学活] 私の進路	・国際交流会 (スポーツ・料理などを題材に) ※Christmas Day (クリスマス)
1		将来を見つめる (トライやる・ウィークの作文より)	[学活] 震災に学ぶ [学校行事] トライやるウィーク体験発表会	※日本の正月
2	④美 原始美術			※イギリスの中学生
3	④環 環境や資源に配慮した衣服を調べ、新聞にまとめよう		[学活] 1年間をふりかえって	※Good Friday・Easter Monday (イースター)

※ 印は、ALTとの活動

ゴシック体：実践事例を掲載

(3) 中学校3年

月	教 科	道 徳	特 別 活 動	総合的な学習の時間
4	④ 言葉の学習 (日本語の特徴と世界の言語と比較)	仲間づくり	[学活] 修学旅行に向けて	※St George's Day
5	④ 伝統芸能 (能・狂言・歌舞伎など)の世界 ⑤ 世界の子どもたち P15 参照	差別と人権問題(人権作文)	[学活] 人権作文コンクール	※May day Holiday (メーデー)
6	⑤ 日本の援助 ⑥ 世界の子どもたち P15 参照	集団生活の向上	[学活] 修学旅行を終えて [学校行事] 多文化ふれあいフェスティバル	
7	⑥ 世界の子どもの問題 P17 参照 ⑦ うちわにメッセージをこめて P23 参照	今の自分を考える 「私たちの人権宣言」(女たち)		※平和への願い (ゲストティーチャーを招いての講演会) ※お別れパーティー
9	⑧ 記号「」の始め ⑧ 三平方の定理の発見		[学校行事] 体育大会	※はじめまして(自国の紹介)
10	⑨ 地震と“ツナミ” 選訳⑩ 『Let's study mathematics in English!』より平方根について P31 参照	人権の歴史	[学校行事] 合唱コンクール	※日本で不思議に思うこと ・ミニ講演会「多文化交流学習会」
11	⑩ Okinawa Music.(エ伊・三線・島唄から沖縄を知ろう)	就職差別に学ぶ(先輩からの便り)	[学校行事] 文化祭	※Remembrance Day (終戦記念日)
12	⑩ Yuki in London. (由紀のイギリス旅行) ⑩ 共生について考えよう P27 参照	結婚差別に学ぶ(先輩からの便り)	[学活] 私の進路	・国際交流会 (スポーツ・料理などを題材に) ※Christmas Day (クリスマス)
1	⑪ 世界の諸民族の音楽	「差別と偏見」(女たち)	[学活] 震災に学ぶ	※日本の正月
2	⑪ いろいろなポピュラー音楽 ⑪ シューレルレアリズム(フランス)	「地球市民としての私たち」 (きらめき)	[学活] 進路指導	※イギリスの中学生
3	⑫ 家族との関わり (各国の家族の定義)	社会の一員として 「新しい出発」(心のノート)	[学活] 1年間をふりかえって	※Good Friday-Easter Monday (イースター)

※ 印は、ALTとの活動

ゴシック体：実践事例を掲載

### Ⅲ 教科における取組

#### 1 国語

教科	テーマ等	学年
国語	中国の文字を知ろう	小学校4年

#### 1 ねらい

- (1) 中国で使われている漢字と日本で使われている漢字の同じところや違うところを知り、漢字に興味をもつ。
- (2) 中国人児童の学習意欲を喚起する機会とする。

#### 2 活動内容

##### (1) 児童の状況

本校4年生には、中国籍児童が各クラスに1人ずついる。今では、日本の漢字や言葉など、日常生活にはほとんど困らないほど学校生活に慣れ親しんでおり、中国で学習した漢字や発音などを忘れてきている者もいる。回りの児童も、この3人を外国人と意識して過ごしている様子は見られない。

しかし、この3人の家庭では中国語が中心の生活になっている。夏休みには中国の親戚の家に長期間行ってきた児童もいて、家庭生活の中では中国との関わりが続いているのが現状である。親も中国で育ったことの意義を大切にしてほしいという願いをもっている。

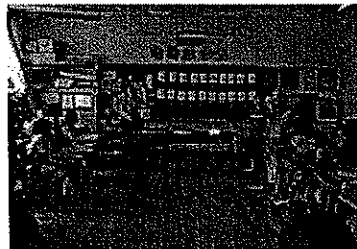
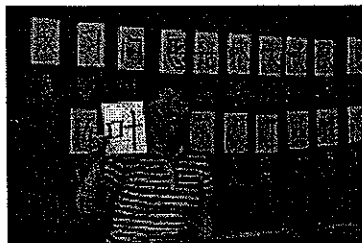
##### (2) 題材の選定

子どもたちは、今までに言葉での挨拶や服装、食べ物など、中国の文化に関して学習する機会があった。中国の文字も、日本と同じ漢字を使っていること、漢字が中国から日本に入ってきたことも知っている。この学習では、4年生までに習った漢字の中で、現在中国で使われている漢字で日本と違う形の漢字を選び、比較させることで、漢字に対する興味を引き出していきたい。

##### (3) 指導の流れ

導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講師の先生（中国の方）の紹介</li> <li>○今までにふれてきた中国文化について思い出す。 挨拶、言葉、服装、食べ物など</li> <li>○その中で、文字としての「漢字」文化を比較し、学習することを確認する。</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在使われている中国の漢字を日本の漢字（4年生までに学習した漢字）のどれに該当するか、考え発表する。</li> <li>予想の簡単なものから、難しいものへ20個ほど提示して考えさせる。</li> <li>[例] 「東」「門」「話」「鉄」「飯」「飲」「貝」「広」「進」「悪」「帳」「習」 「業」「橋」「勝」「農」「湯」「菓」「漢」「葉」など</li> </ul>

ま と め	○中国の漢字は簡単になっていることを知る。
	○簡単にしている方法を知る。
	・草書から「貝」など
	・一部分を取って「業」など
	・発音、意味から「進」など
	○感想を書く。



#### <児童感想文>

中国には、日本と同じ漢字もあるが、違う漢字もある。その違う漢字のことを勉強した。その漢字は、日本と同じ漢字の画数を少なくしたそう。それは、3つに分けられていて、一部分をとったもの、つなげ字でできたもの、音が同じ漢字を使ったものがあつた。

幼稚園から漢字を習っていると聞いてびっくりした。この勉強をすると、クイズみたいに中国の漢字がおぼえられてよかった。もっと中国のことが知りたいと思った。

#### (4) 工夫点や配慮点

ア 児童の関心を引くために、中国で使われている幼稚園の漢字の教科書や中国の4年生の教科書を提示する。

イ たくさんの児童が予想した発言ができるように時間的にゆとりをもたせるため、漢字の数をあまり多くしない。

### 3 成果

- (1) 予想のつきやすい漢字とつきにくい漢字があつたが、児童はそれぞれに活発な発表ができた。
- (2) 中国人児童も記憶に残っている漢字があり、喜んで学習活動に参加することができた。
- (3) 他の漢字についても、どれだけ簡単になっているものがあるか、興味をもって調べようとする児童も出てきた。

### 4 課題

- (1) 中国籍児童が在籍している学級だけでなく、他の学年、学級にもこのような授業を広げていくためには、講師の先生の時間確保が必要である。
- (2) 中国籍児童の積極的な学習意欲を引き出すことができたが、今後、他の教科の授業でも意欲的に取り組ませたい。

教科	テーマ等	学年
国語	世界の子どもたち	中学校3年

## 1 ねらい

- (1) 世界に目を向け、自分たちと同年代の子どもたちがおかれている状況を知る。
- (2) 自分たちの生活と結びつけ、世界の子どもたちの状況を考えることができる力を身につける。

## 2 活動内容

### (1) 学習目標

さまざまなメディアを通して、地球温暖化による環境問題、テロや内戦といった海外の諸情勢の問題点を読み取る。

### (2) 展開例

学 習 活 動	指導上の留意点
<p>1 「児童の権利に関する条約」の権利は、大きく4つに分けることができることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生きる権利」</li> <li>・「育つ権利」</li> <li>・「守られる権利」</li> <li>・「参加する権利」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの権利について、具体的な内容を挙げながら理解させる。</li> <li>・「児童の権利に関する条約」がどのような背景でつくられてきたのか考えさせる。</li> </ul>
<p>2 外国と日本の生活の様子を比較し、共通点や相違点について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の子どもたちの現状に気づくとともに、自分たちができることについて考えさせる。</li> </ul>
<p>3 「生命の大切さ」や「生きる権利の保障」の重要性に気づき、異文化理解と子ども多文化共生教育の大切さを理解する。</p>	



### (3) 生徒の感想

「ぼくらは、生きていていいんだ。」

無意識のうちに私達は生きていますので、この言葉の意味がよく分からない。生きることが当然で笑うことがあたりまえの生活。しかし、今、私が笑っている裏側で、泣いて死んでしまう子がいる。その事実には驚かなければいけないんだと私は思う。

私と同じ年齢の子、もしくは、もっともって年下の子。その子どもたちが危険から逃げ回っているのだろうか…。どうしてこんな現実があるのか、疑問が生まれる。

家族が死んだことを自分のせいだと思っている子、大人の勝手な行動のせいで堪え忍びながら生きています子、アフリカの象や動物を見たことがない子、HIVに感染するかもしれないが売春しなければならない子…。

私が今知っている子どもたちは本当に少なく、もっともってたくさんの子もたちがこういう現実には立ち向かわなければならない。自分とは全く違う世界で生きる子どもたち。だけど「生きる」という気持ちが私たちよりも誰よりも強い子どもたち。どうして大人の都合でこの子どもたちは殺されるのだろうか…。どうしてこの子どもたちは「生きていていいのか？」と聞かなければならないのだろうか…。

それでも、その子どもは笑って今を生きているのだろう。その笑顔は私たちと全く一緒なのだ。空を見上げてにっこり笑う、この動作は私たちもよくする動作。全く違うと思っている世界の子どもたちは、本当は私たちとよく似ていて、本当は私の友だちになるはずだったかもしれない。私が忘れていたことを、この子どもたちに教えてもらった。私もこの子どもたちを助けなければならないのに、私は何もできていないような気がする。今被害に遭っている子どもたちや、これから被害に遭う子どもたちのためにも、私たちはこの現実を知ることが、この子どもたちを助ける第一歩になるのだろう。

### (4) 工夫点や配慮点

世界の子どもたちの現在おかれている状況等を考えさせる中で、「児童の権利に関する条約」がつけられた背景をよりはっきりと理解させる。

## 3 成果

- (1) 「児童の権利に関する条約」がどのような背景でつけられたのかを学習することにより、権利だけではなく、責任や義務についての関心・意欲も高まってきた。
- (2) 悲惨な子どもの姿やタンザニアの名もない村の村長さんの言葉に深い感銘を受け、生徒が自らの生き方を振り返る機会となった。

## 4 課題

- (1) 集めた情報やそれらに対する自分の考えについて、焦点化したり、整理して発表したりするのが苦手な生徒が多い。
- (2) 日本と諸外国とを対比した学習をさらに進め、グローバルな見方や考え方を深める必要がある。

## 2 社会

教科	テーマ等	学年
社会	世界の子ども問題	中学校3年

### 1 ねらい

- (1) 世界に目を向け、国によって子どもたちを取り巻く生活環境が大きく異なっていることを理解する。
- (2) 世界中のすべての子どもたちが幸せに暮らすためには、どうすればよいかを考える。

### 2 活動内容

#### (1) 学習目標

世界の子どもたちが、今どのような状況に置かれているのかを理解し、話し合いを通して世界の子どもたちの人権を考える。

#### (2) 展開例

ア 世界の子どもたちの写真やビデオを見ながら、困難な状況におかれている子どもたちの実態について話し合う。

イ 話し合いの具体的な視点

- ① 戦争や飢餓で死んだり苦しんだりしている。
- ② 貧しくて働かなければならない。
- ③ 学校に行けず、文字の読み書きができない。
- ④ 路上で暮らすストリートチルドレンがいる。
- ⑤ 子どもたちが兵士として訓練されている。

ウ 『世界子ども白書』（2005年版ユニセフ）より、世界の子どもたちがかかえるさまざまな問題点を読み取り、その問題点について考える。

エ 「児童の権利に関する条約」の4つの権利である「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を理解する。

オ 子どもをめぐる問題は、開発途上国だけではなく、先進国においても存在していることを知り、それぞれの問題を考えるとともに、すべての子どもたちが幸せに暮らせるにはどうすればよいかを話し合う。

(3) 指導の流れ

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 世界の子どもたちの写真を見て、感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やせ細っている。</li> <li>・悲しそう、何かを訴えている。</li> <li>・とても衝撃的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気づいたことや問題点をたくさん出させる。</li> <li>・友だちの見方や意見について、自分と比べさせ、よりふくらませる。</li> </ul>
<p>2 開発途上国と先進国の子ども様子を比べる。</p> <p>(1) 先進国の子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何でも食べられる。</li> <li>・食べ物をよく残す。</li> <li>・何でも買うことができる。</li> </ul> <p>(2) 開発途上国の子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べるものがほとんどない。</li> <li>・物を買うことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「貧しい」「豊か」という見方だけではなく、なぜそのような状態であるのかを考えさせる。</li> <li>・物質面・精神面の両方から考えさせ、原因やその改善方法について話し合わせる。</li> </ul>
<p>3 「児童の権利に関する条約」について考える。</p> <p>(1) 「児童の権利に関する条約」を読み、その内容について考える。</p> <p>(2) 『世界子ども白書』の資料から問題点を考え、話し合う。</p> <p>(3) 国連子ども特別総会の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難しい内容が多いので、具体例を挙げて、わかりやすく説明する。</li> <li>・子ども自ら訴えている状況を示し、自分たちができることは何かをつかませる。</li> </ul>
<p>4 日本の子どもたちの問題について考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや虐待がある。</li> <li>・親子関係があまりよくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進国の日本においても、子どもたちを取り巻く様々な問題があることに気づかせる。</li> </ul>

(4) 工夫点や配慮点

写真やビデオを活用し、世界の子どもたちの状況を把握させる。

3 成果

- (1) 子どもたちの貧しい状況が、戦争や国の政策等により生じていることが理解でき、改善していくことが子どもたちを守ることに繋がっていくことを学んだ。
- (2) 先進国においても、子どもを守るべき親や近親者による虐待、子どもの薬物使用等が問題になっていることを知り、子どもたちがどのような状況下におかれているのかを知ることができた。

4 課題

- (1) 情報化社会のため、いろいろな情報を入手することは簡単であるが、その情報を整理したり、活用したりすることを苦手とする生徒が多く見られる。情報を取捨選択する力の育成をはぐくんでいく必要がある。
- (2) 諸外国と日本の子どもに焦点を当てて問題点を考えさせようとしたが、物質面等において、何不自由なく生活している子どもたちに、いかに自らの問題として考えさせるか、その方策が課題である。

### 3 生活

教科等	テーマ等	学年
生活	ともだちのくにのあそびをしよう	小学校1・2年

#### 1 ねらい

- (1) 学級の友だちの母国であるいろいろな国の遊びを体験することを通して、互いのよさや違いに気づき、大切にしようとする心をもつ。
- (2) 母国から離れて暮らす人たちとの出会いを通して、それぞれの人の思いや願いに気づく。
- (3) 自分から進んで体験したり、調べたりして、学んだことを自分なりの方法で表現する。



韓国・朝鮮の「ペンイ」(こま)にチャレンジ



中国の遊び「目かくし鬼ごっこ」

#### 2 活動内容

##### (1) 活動計画 (全16時間)

時	学習活動
1・2	○ 「こんなあそび、しってるよ ～あそびたんけん1～」 ・自分の好きな遊びや日本に昔から伝わる遊びを発表し合い、体験する。
3・4・5	○ 「ともだちのくにのあそびをしよう ～あそびたんけん2～」 ・ゲストティーチャーを招き、ベトナム、韓国・朝鮮、中国の遊びを体験する。
6	・遊びを体験して、気がついたことや思ったことを発表し合う。
7・8・9	○ 「わくわくあそびランドをひらこう ～おうちの人にも教えてあげよう～」 ・計画を立てる。 ・準備する。 ・練習する。
10・11	・わからないことやもっと知りたいことをゲストティーチャーに教えてもらう。 ・ゲストティーチャーといっしょに練習し、発表の仕方を見てもらう。
12・13	・準備や練習のつづきをする。 ・リハーサルをして、子ども同士で見せ合う。
14・15	<わくわくあそびランド> ・おうちの人や保育所の友だちを招待して、いっしょに遊ぶ。
16	○ あそびのせんせいにてがみをかこう ・活動をふりかえり、手紙に書きあらわす。



わくわくあそびランド  
保育所の子どもたちと  
いっしょに

## (2) 工夫点や配慮点

- ア 学校・学級の実態に合わせて、子どもたちに身近な国の遊びを取り上げるようにする。
- イ この学習に入るまでに、保護者に学習についての理解や支援をお願いするとともに、保護者の思いや願いを知ることが大切である。
- ウ 体験的な活動やゲストティーチャーとのかかわりが十分にできるように、時間や場所を確保する。また、保護者や地域の方にも一緒に参加してもらうようにする。
- エ 保護者や保育所の子どもたちに発表する場をつくり、子どもたちがより意欲的に活動できるようにする。

## 3 成果

- (1) 学級に在籍する外国人児童の母国である、韓国・朝鮮やベトナムの遊びや歌などを体験した。子どもたちはその国を“自分たちの友だちの国”としてとらえ、今まで以上に親しみを持ち、ともに楽しく活動することができた。
- (2) 1年生にとっては、日本以外の国を意識して学習する初めての機会であったが、在日外国人の子どもたちにも回りの子どもたちにも、遊びという身近な活動を通して、自然にそのよさや違いにふれることができた。
- (3) 2年生は、1年生のときにもこのような学習をしているため、遊びの内容を広げたり、発表の仕方を自分たちで工夫したりする姿が見られた。
- (4) 子どもたちはゲストティーチャーの姿や言葉を通して、日本との違いに興味を持ち、それぞれの国のすばらしさに共感することができた。
- (5) 「韓国と日本はとても近くて、似ていることも違うところもありますね。」「これからも、みんななかよくしてほしいです。」というメッセージが子どもたちに送られた。
- (6) ベトナムにルーツのあるA子は、当初、自分の母国のことを話すことに抵抗があった。しかし、この学習に取り組む中で、A子は自分から進んで両親にベトナムの遊びや言葉について教えてもらい、自分の母国のことを自信をもって友だちに語る姿が見られた。

## 4 課題

- (1) 子どもたちは、ベトナムや韓国・朝鮮、中国など、さまざまな国の文化に親しむことができたが、日々の暮らしの中では、自分とは違うことに対して心ない言動が見られることもある。学習したことを自分たちの暮らしの中に生かしていくためには、それぞれの国のよさや違いに共感できる取組や人々の姿や思いにふれる機会を積み重ねていくことが大切である。
- (2) 保護者や地域との連携を深め、子どもたちに外国籍の児童やその保護者の思いや願いを伝えることを通して、一人一人が自分を大切にするとともに、友だちを大切にできる子どもたちになってほしいと思う。

## 4 音楽

教科	テーマ等	学年
音楽	インドネシアの音楽を通して	中学校1年

### 1 ねらい

- (1) 世界の諸民族の音楽にふれることで、独自の音楽的特徴や曲の趣を味わう。
- (2) 諸民族の音楽が生まれた文化的・歴史的背景を知るとともに、その音楽への興味・関心をいっそう高め、幅広い音楽観をもつ。

### 2 活動内容

(1) 題材 インドネシアの音楽

(2) 指導計画

ア インドネシアについて知っていることやイメージのアンケート

- ① 東南アジアの国で、暖かい。
- ② 島が多い。
- ③ 海がきれい。
- ④ バナナやマンゴーを栽培している。
- ⑤ カレーが有名。など

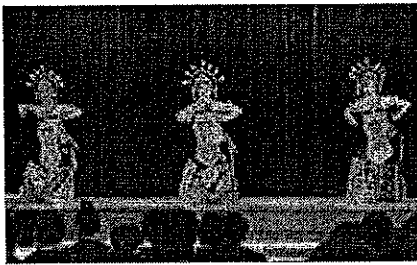
イ バリダンスとガムランについて

近年観光地として有名になったバリ島は、日本のほぼ南に位置するインドネシアの島の一つである。そのバリ島の有名な芸能としてバリダンスがあり、演奏としてガムランという金属楽器のオーケストラがある。



ガムラン

ウ 文化祭での舞台鑑賞 舞踊「チリヤナ」



文化祭での舞台鑑賞 舞踊「チリヤナ」

バリの豊穡の女神デヴィ・スリをかたどった「チリ」という人形が、祭の竹飾りの先で風になびく様子を描いた踊りと言われている。このかわいらしく、コミカルな踊りは、比較的新しい踊りだが、バリダンスは古典的な踊りから、新しい踊りまでさまざま、人々の生活の中に根付いている。

エ ゲストティーチャーによる音楽の授業

- ① 地球儀で、インドネシアの位置を確認する。
- ② インドネシアで使われている言葉についての話を聞いて、「おはよう」「こんにちは」など、日常のあいさつを学習する。
- ③ ガムラン演奏をDVDで鑑賞しながら、楽器や演奏方法について学習する。



ゲストティーチャーによる音楽の授業

- ④ ガムラン演奏と共に踊るバリダンスについて学習する。
- ⑤ バリダンスの衣装を試着する。
- ⑥ 感想を書き、学習を深める。

### (3) 生徒の感想

初めてバリダンスの衣装を着た。すごくしめつけられて苦しかった。動きにくいのに、踊っている人たちはなんであんなふうにステップをふめるのか不思議に思った。



バリダンスの衣装を試着

バリダンスは、不思議な音楽とキラキラの衣装を着て行われている。そして、肩や頭を振って頭にかぶっているグルンガンについている花を揺らしながら踊っている。

曲は、ガムランというリズムが速い音楽だった。インドネシアでは、その衣装を着て踊れる人はみんなの憧れだということがわかった。インドネシアの文化がいろいろわかってよかった。



グルンガンを被って完成

バリダンスの衣装は重そうだなと思っていたけれど軽かった。飾りは牛皮でできていて、すべて手で彫っていると聞いて驚いた。指揮者がいなかったり、自然に音楽を覚えたりするのはすごいと思った。また、楽譜がなくても演奏できるのはすごいなと思った。

### (4) 工夫点や配慮点

- ア 文化祭で、現地でバリダンスを習った教師の踊りを鑑賞し、その身近にいる教師から、本場の様子を直接生徒に伝える。
- イ 生徒にダンスの衣装を試着させる。
- ウ 映像資料や教師が撮影した写真を活用して、インドネシアの景観や人々の暮らしなども紹介する。



グルンガンを被ってみよう

## 3 成果

- (1) ガムランは、ほとんどの生徒たちにとって、初めて聴く音楽だったが、身近な教師をゲストティーチャーに迎え、授業を行ったことは成功であった。
- (2) 世界の諸民族の音楽に対して、興味・関心をもつことができた。

## 4 課題

- (1) 世界の諸民族の音楽や文化に興味・関心を深めるとともに、自国の音楽や文化にも興味・関心を深める。
- (2) いろいろな国や地域の文化を理解し、豊かに共生する心を培う。

## 5 美術

教科	テーマ等	学年
美術	うちわにメッセージをこめて	中学校2・3年

### 1 ねらい

- (1) 世界の「貧困と生きる子どもたち」の現状を理解する。
- (2) 具体的な実践を通して、社会や人々に役立とうとする意欲をもつ。

### 2 活動内容

#### (1) 学校行事としての人権講演会(国際理解)

「幸せの種まきキャンペーン」

テーマ「貧困と生きる子どもたち」

SYD出前授業／講師：SYD(財団法人 修養団) 青年部

ア 講演終了後のアンケートの「機会があればボランティアをしてみたいですか?」の問いに、多くの生徒が「はい」と回答し、あるクラスでは講演会翌日に自主的に募金箱を設置したところがあった。

イ 生徒会が中心となり、学校を挙げて募金活動に取り組むことになった。

ウ 活動を継続的な取組とすべく、生徒全員が参加できるものとして美術の夏休み課題として、うちわ製作(各自、うちわに絵手紙の技法で絵を描く)を行った。

エ SYDに依頼し、作成したうちわをフィリピンに届けた。

#### (2) 美術授業～うちわ製作手順～

##### ア 事前指導

- ① 筆にたっぷり墨を含ませ、筆のてっぺんを持ち、垂直に立て、思い切ってゆっくり線を描く。
- ② 1本の線を描くのにしっかり集中して、急がずゆっくり筆を運ぶ。
- ③ 塗り残しをつくる。輪郭の中をきっちり塗りつぶすと、絵が平坦になってしまうので、わざと塗り残しをつくる。塗り残しがある方が線が生きてくる。
- ④ 1色だけで終わらせるのではなく、2～3色を重ねてみる。その際、1色目が必ず乾いてから2色目を重ねる。

##### イ メッセージの作成

(例) あなたの幸せは、きっといつか訪れる…。そのことを信じて、一日一日を大切に生きていくということが幸せの第一歩。常に人への感謝の気持ちを忘れずに。私はあなたの幸せをいつも願っているから…。

##### ウ ビデオ鑑賞 TV番組「もしも100人の村だったら」

うちわ製作を単に「夏休みの課題」としか捉えていない生徒もいるため、ビデオ鑑賞により、改めて製作目的を個々の生徒に意識づける。

##### エ うちわ製作最終仕上げ

最終の仕上げとして言葉を選び、メッセージとして書き込む作業をする。

うちわを相手に贈るものとして、それぞれの思いを自分の言葉で書き込む。

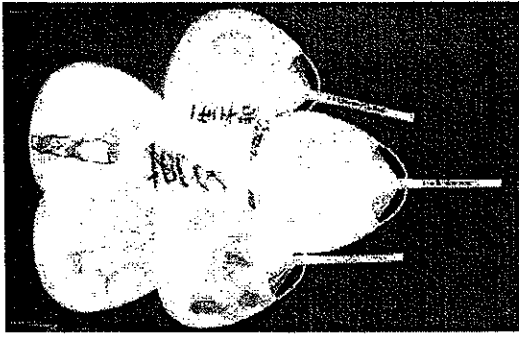
\* 漢字1文字を書き込む生徒

\* 一言コメントを書き込む生徒

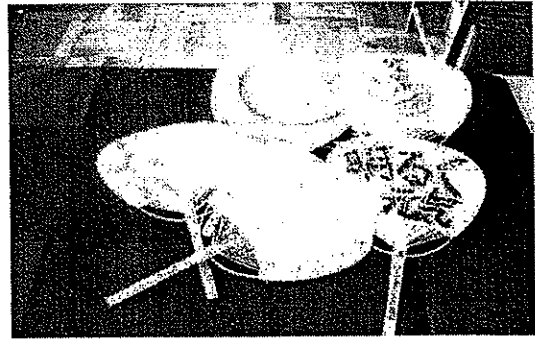
\* 手紙形式の文章を書き込む生徒

・以前フィリピンに数年間在住経験のある生徒がいるため、その生徒を中心にフィリピン語でメッセージを書き込む姿も見られた。





生徒作品 1



生徒作品 2

### (3) 生徒の感想

ア 「学校にいきたい!」この言葉に私は心を打たれ、普段「今日は学校にいきたくないな。」と  
思ってしまうことのある自分をとても恥ずかしく思った。それだけではない。朝から晩まで  
働いている姿。育ち盛りの子どもたちが空腹を抱え、我慢し、三日に一度食べる少しのお米  
を心待ちにしている姿。そんな姿を見ていると言葉が出なかった。私たちはこうして毎日を  
普通に暮らしているだけでとても幸せだったのだ。しかし、私たちはこうして生活している  
うちに、その感謝すべき状況にあることを忘れてしまうみたいだ。つらい環境におかれなが  
らも一日一日をしっかりと生きている子どもたちを見習い、私たちは自分自身の生活をもう  
一度見直すべきだと思う。そしていつの日か、そんなに立派に生きている人たちが、苦しい  
生活から救われる日が来るのを願いたい。

イ 私は「学校へ行きたい。」という子どもたちのために、Pencil (鉛筆) を描いた。最初は学  
校の絵を描こうと思ったが、いや教科書がいいかな? やっぱり文房具のほうがいいなあ、と  
いろいろ考えた結果、鉛筆にした。鉛筆で文字を書いて、その文字を覚えて欲しい。鉛筆で  
絵を描いて、その絵を回りの人に見せて欲しい。そんな気持ちで描いた。

ウ フィリピンの人が、どんな大変なことをして生きているのか分かった。夏休みの宿題に出  
た「うちの絵」を僕は全力で取り組まなかった。でも今日の映像を見て、うちわがあると  
フィリピンの人にとって便利だと思った。だから、メッセージは心をこめてちゃんと書こう  
と思った。

### (4) 工夫点や配慮点

ア うちわを受け取るフィリピンの人たちの状況を理解するため、TV 番組「もしも 100 人の村  
だったら」のビデオ鑑賞を行う。

イ 「フィリピンは貧富の差があり、生活する人達すべてが貧しい生活を送っているのではな  
い。」ということと「貧しい中でもたくましく生活している人たちがいる。」ことを伝える。

## 3 成果

フィリピンの実情が、生徒の現状とかけ離れ過ぎているという危惧もあったが、自分たちの恵まれ  
た生活を改めて考え直すきっかけにはなった。そのことで、自分たちに来ることの中で「心をこめ  
る」という作業につながり、実践・行動への第一歩となった。

## 4 課題

ボランティア精神の趣旨を理解し、人々のために役立とうとする意欲がもてるか。また、相手を思  
いやる心をもってどのように実践していくかが課題である。今後も、さまざまな立場の人の思いや願  
いに気づき、ボランティア活動を推進していくことが必要である。

## 6 技術・家庭

教科	テーマ等	学年
技術・家庭	環境や資源に配慮した衣服について	中学校2年

### 1 ねらい

- (1) 衣服の着用目的や意味を考えるとともに、衣服と社会生活とのかかわりに関心を持ち、気候や風土などを考慮して適切な材料や構成がなされてきた日本の衣服について理解する。
- (2) 衣服から、国の文化の違いや多様性に気づくとともに、さまざまな国の文化を尊重しようとする。

### 2 活動内容

#### (1) 指導計画（全10時間）

学 習 内 容	時間数	学 習 活 動
1 日常着の活用 (1) 自分らしく着る。  (2) 衣服の選択と活用について考える。	2	○衣服の選び方を振り返ってみよう。 ・自分に合う色を見つける。 ・衣服を組み合わせてみる。 ・衣服のはたらきを知る。 ・経験から既製服購入の時のポイントを考える。 ・既製服の選択方法を知る。
2 衣服の手入れ (1) 衣服の構成・手入れの仕方を調べる。  (2) 日常着の歴史を調べる。	2	○日常着に必要な手入れについて考えよう。 ・制服の原料・織り方・構成を調べる。 ・原料・織り方・構成を知る。 ・和服と洋服の違いについて考える。 ・日常着の条件について考える。
3 環境や資源に配慮した衣生活 (1) 他国の衣服を調べる。  (2) 新聞にまとめる。	6	○環境に配慮した衣生活を考えよう。 ・他国の民族服について調べる。 ・環境（気候・風土）と衣服の関係について考える。 ・自分の調べたことをわかりやすく新聞にまとめる。

#### (2) 導入と評価

##### ア 衣服の構成

「体に巻きつけるかたち」



【前が開いているかたち】



【腰に巻きつけるかたち】



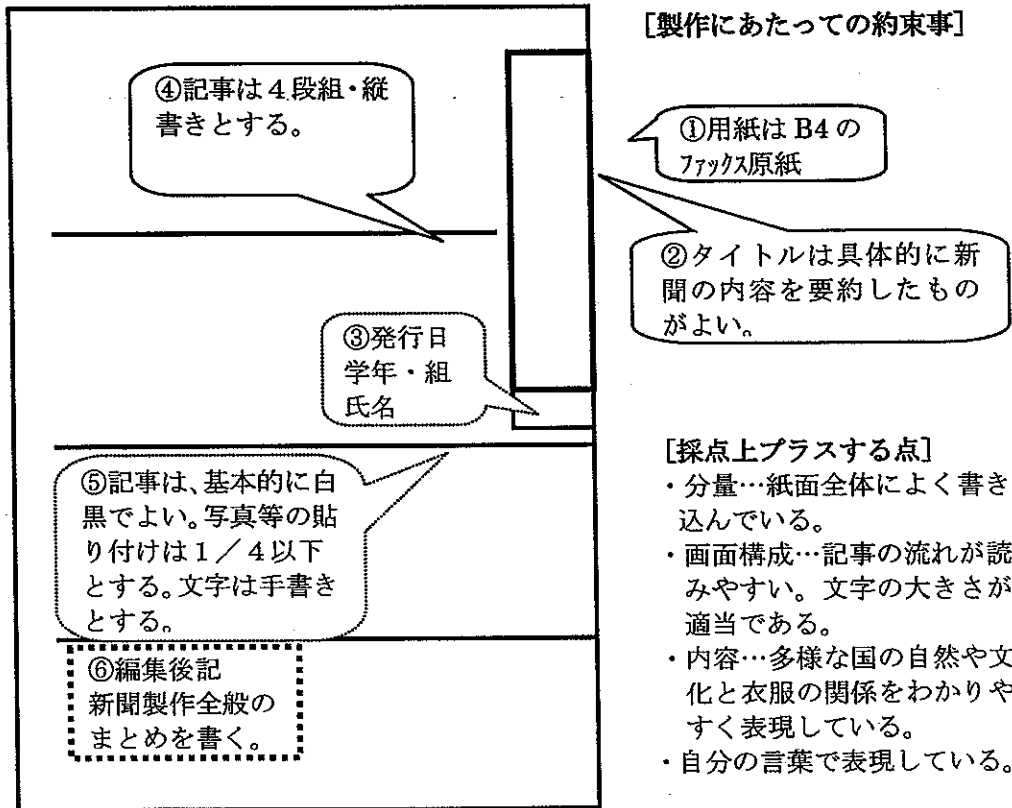
【頭から通してかぶるかたち】



- ① 体に着装した状態で、空気の通り具合から、適した気候について考えさせる。
- ② 体に着装した布を広げて、どんな形の布でできているか見せる。

- ③ 体型に合わせたかたち(洋服)と比較して、かなり単純な長方形の形(リサイクルが容易である)をしていることを知らせる。

イ 新聞へのまとめ方



ウ 生徒の感想

- ・ みんなの新聞から、それぞれの国において、衣服が気候や風土を考えいろいろ工夫されていることがよくわかった。
- ・ よく書き込んであるなどと思うものがあった。
- ・ 同じことを調べても、書く人によって違ったものになると思った。

(3) 工夫点

時間が限られているので、用紙・書き方・まとめ方など、できるだけ統一する。評価についても事前に説明しておく。

3 成果

- (1) それぞれの国では民族衣装があり、それぞれの国の気候や風土に最適な衣服であることを知る機会となった。現在でも、民族服が日常着となっている国があることもわかった。
- (2) なぜ、日本で着物が日常着として用いられてきたかを知ることにより、布を大切にしてきた日本人の考えを知ることができた。
- (3) 他の生徒が作成した新聞を評価することにより、自分の作品と比較して考えたり、学習内容を深めたりすることができた。

4 課題

- (1) 調べる方法が校内の図書であったり、インターネットであったりすることが多く、内容が似たものになってしまった。
- (2) 授業時間内に仕上げさせたので、時間が足らなくなったり、調べたことを書き写すだけになったりした生徒も多かった。

## 7 英語

教科等	テーマ等	学年
英語	共生について考えよう	中学校3年

### 1.ねらい

- (1) 世界の人々と「平和への願い」という視点でつながることを知る。
- (2) 隣国である韓国・朝鮮の言葉や文化について知る。
- (3) 同じ箸やお椀などを使っている、その使い方は日本と韓国・朝鮮では少しずつ異なっているため、その違いを理解する。

### 2 活動内容

#### (1) 2年生の取組

##### ア 題材 「Kumi talks about Korea」

(出典：三省堂ニュークラウンイングリッシュシリーズ2 レッスン4)

##### イ 学習の流れ

- ① 導入として、教師が大韓民国（韓国）を訪れた際の話をする。
- ② 本文を読む。 ※セクション2, 3では教師が補足説明する。
  - ・セクション1 今読んでいる本の紹介
  - ・セクション2 ハングル文字について  
(出来た時期、作った人、その成り立ちについての説明)
  - ・セクション3 食事作法の違い  
(同じ動作でも日本と韓国・朝鮮では逆の意味になる場合がある。)

##### ウ 生徒の感想

- ① 家では、おちやわんを口まで持って行って食べなさいと言われる。韓国ではその食べ方はおかしいそうで、びっくりした。お箸や食器の材質も違う。きっと韓国の人が日本に来たら、とまどうだろうなと思った。
- ② 最近、私のお母さんは韓国ドラマをよく見ている。だから、ハングル文字を身近に感じていたので、とても興味をもって授業を受けた。



韓国の芸能「サムルノリ」

#### (2) 3年生の取組

##### ア 題材 「Sadako and The Thousand Paper cranes」

(出典：三省堂ニュークラウンイングリッシュシリーズ3)

##### イ 学習の流れ

- ① NHKスペシャルを録画したビデオ「原爆の子の像 佐々木禎子」を見る。
- ② 本文を読む。 ※各セクションで教師が補足説明をする。
  - ・セクション1 禎子の生涯
  - ・セクション2 世界で知られる禎子
  - ・セクション3 原子爆弾の脅威

③ 広島・長崎の原爆に関する写真集を見せ、核兵器の特殊性を理解させる。

#### ウ 生徒の感想

① 今日の学習では、佐々木禎子の生きざまについて学んだ。走ることが大好きだった禎子が白血病に冒されながらも、最期まで生きる望みを千羽鶴に託し、病床で鶴を折り続けたことを知って、悲しい気持ちになった。私たちも、禎子の思いを語り継いでいきたいと強く思った。

② 禎子が死んでから、彼女をモチーフにした「原爆の子の像」が作られたことを知った。広島へ行ったら、必ず彼女の像を見たい。戦争は、むごいものだと思うた。

#### (3) 工夫点や配慮点

ア 授業だけでなく、日頃の会話の中に戦争の話や隣国の話などを入れるように努めると、生徒の興味・関心が強くなる。

イ 韓国・朝鮮については、学校内の「多文化紹介コーナー」などを利用し、写真や文章などで紹介する。

### 3 成果

(1) 教科書の情報はごくわずかだが、それを切り口として教師が韓国・朝鮮の補足説明をすると、生徒はとても興味を示した。特に韓国・朝鮮も漢字を使うということは知っていても、現在の韓国・朝鮮ではハングル文字がほとんどであり、漢字は主に地名や人名にのみ使われるということや、ハングル文字はまだ出来て550年ほどの新しい文字であること、その成り立ちなどに特に興味をもつことができた。

(2) 食事の際、日本では食器を手で持たないと注意されるのに対し、韓国では逆に「食器を口元まで持っていくのは、飢えているようで恥ずかしい食べ方だ。」と言われるそう。セクション3でこの部分を読むと、ほとんどの生徒が「へえ〜」と驚く。スプーンの使い方の違いなど、食事に関することだけでも、面白い違いがあることに気づいた。

(3) 教科書の中で、禎子の物語は30カ国以上で翻訳され出版されていることを知った。多文化共生にとって平和がいかに大切か、よく理解できた。

### 4 課題

(1) 教科書では「Korea」となっているが、教師が補足説明したことはほとんど韓国についてのものであり、「Korea」=韓国のようなイメージを生徒に植え付けてしまっていないか、反省した。しかし、現在の北朝鮮の政治的な事になると英語の授業の範疇を超えてしまう懸念があり、難しい。

(2) もう少し深く考え、話し合いをさせるためには、時間の確保が課題である。各レッスンの時間の割り振り計画を綿密に行う必要がある。



共生とは・・・

## 8 選択教科（社会・数学）

教科	テーマ等	学年
選択（社会）	身近な生活から、世界の国を調べよう	中学校2年

### 1 ねらい

- (1) 身近な生活の中から、外国の人々の暮らしにかかわるテーマを見つけ、調べることによって、世界の人々の暮らしを身近に感じる。
- (2) 一つの情報だけにとらわれず、さまざまな視点から調べる。

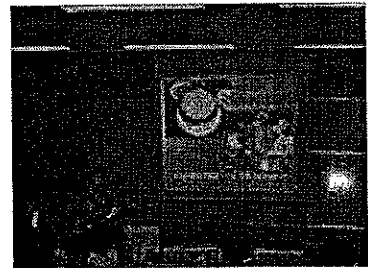
### 2 活動内容

- (1) 身近な生活の中から、外国の人々の暮らしにかかわるテーマを決める。  
 [例] ・祝祭日とイベント ・料理の特徴 ・人間と共に暮らす動物  
 ・流行 ・お金や物価 ・特産物 ・サッカーの人気選手 など

- (2) 海外在住経験者の話を聞いて、具体的なイメージをもつ。

ア 隣国「韓国」の知られざる素顔  
 ～韓国を調べよう～

- ① 講師 元ソウル日本人学校教員のN先生
- ② 韓国・朝鮮語による自己紹介に始まって、生徒のテーマに合わせて、韓国の実情を話す。本物のテコンドーの衣装やサッカーナショナルチームのユニフォームを披露する。



パワーポイントで韓国紹介

#### ③ 生徒の感想

- ・冬は「寒いより痛い。」と聞いて、冬には行きたくないなと思った。
- ・ハングルは、世界で一番新しい文字と知り、興味をもった。
- ・ハングルができる以前の文字は、どうだったか。漢字が使われていたのなら、日本との接点もたくさんあるはずだと思った。
- ・キムチは日本の方が辛い、と言われたのにはびっくりした。
- ・韓国の料理や休みの日などを聞いて、韓国との距離が縮まったような気がした。
- ・日本に対してよいイメージをもっていない韓国人がいることを知り、これからもっと勉強したいと思った。

イ ドイツの人々の生活を学ぶ～2006ワールドカップ開催国ドイツを調べよう～

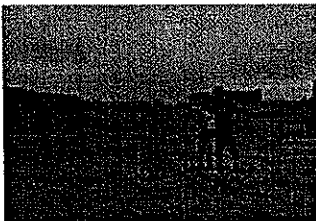
- ① 講師 元デュッセルドルフ日本人学校教員のT先生
- ② ワールドカップの開催で注目が集まったドイツの人々の暮らしを話す。ビール、サッカー、自動車などのイメージはあるが、人々の生活については知っていることが少なかったため、講師の実体験による情報は、生徒にとって新鮮な驚きとなる。

#### (ウ) 生徒の感想

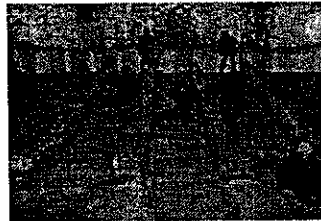
- ・サッカー選手では、クローゼより旧東ドイツ出身のバラックの方が人気があるのが分かった。
- ・ドイツ語のアルファベットは、英語と違うことやドイツ独特の文字や発音があるのを知った。
- ・ドイツの人が、人に左右されることなく自分の意見をしっかりと持っているというのを聞いて見習いたいと思った。
- ・人気のあるTV番組の中にアニメがあり、日本のアニメが流行しているのには驚いた。
- ・10時以降にはお風呂に入れず、自宅で自動車を洗ってはいけないなど、日本とは違う決まりがあることが分かった。ドイツの祝祭日について詳しく調べてみたい。

#### ウ 地域の違いに目をむける ～中国のさまざまな地域の様子を調べよう～

- ① 講師 元上海日本人学校教員のY先生
- ② 成長著しい中国の中でも、もっとも活気のある上海での生活体験をもとに、中国の情報を話す。また、広大な中国は、地域によって人々のくらしや街、自然の様子が大きく異なり、一つの国の中にも違いがある。



[西域の砂漠]



[ハルビンの氷祭り]



[上海の雑踏]

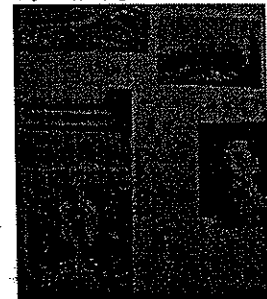
#### (3) 各自で資料を集める。

在住経験者の話から、自分の調べたいことをより具体的に、より深めるようにして資料を集める。

#### 【具体化された生徒のテーマ例】

- ・世界の日常会話とことわざ ・世界で活躍する日本人
- ・祝祭日～日本との比較～ ・中国の歴史～日本とのつながり～

#### (4) レポートにまとめ、発表する。



生徒レポートの表紙

### 3 成果

- (1) 書籍やインターネットの情報は、知識としては深く専門性が高いが、実感としてとらえにくい。実際に現場にいた人の生の情報を加えてもらうことで、情報に対するイメージがふくらみ、身近なものとして捉えやすくなった。
- (2) 自分の課題を見つけて、自ら調べることのおもしろさに気づいた生徒が増えた。

### 4 課題

- (1) 講師の話聞くことで興味・関心は高まるが、実際に自分で資料を集める方法は、インターネットに頼りがちである。検索、加工など、情報の取り入れ方に時間と多くの配慮が必要である。
- (2) 選択授業のため、時間の融通がつきにくいので、講師との時間調整が難しい。

教科	テーマ等	学年
選択(数学)	『Let's study mathematics in English!』 で平方根を学ぼう	中学校3年

## 1 ねらい

- (1) アメリカの数学の教科書を教材に、数学用語の英語表現等を学習する。
- (2) 日本と同じところと違うところを知ること、他国への興味・関心をもつ。

## 2 活動内容

### (1) 学習教材

アメリカで同年代の生徒が使用している教科書の中から、既習事項である平方根を取り上げる。

### (2) 指導内容

#### ア 数学用語の英語表現

まず、「センチメートル」と「インチ」の両方が書かれた定規を見せ、アメリカで日常的に使われている「インチ」について簡単に説明する。このような日本と異なる単位について、知っていることを発表する。学習資料に沿って学習を進める。英文和訳をしながら問題を解く。その際、数学用語について適宜説明を加えながら、数学用語の英語表現を学ぶ。

#### イ 日本との違い

学習を進める中で、アメリカの数学の学習、記号の使い方等について知る。長さの単位に「センチメートル」、「メートル」、「キロメートル」ではなく、「インチ」、「フィート」、「ヤード」などの単位が使われていることや、日常生活と結びつけた問題が取り上げられているなど、教科書は人々の生活や国の教育理念に基づいて作られていることに気づかせ、視野を広げさせる。

Let's study mathematics in English!!

class( ) name( )

☆EXERCISES☆

① Find the square of each number.

1. 1	2. 11	3. 32	4. 16
5. 40	6. 55	7. 27	8. 200

② Find each square root.

1. $\sqrt{121}$	2. $\sqrt{625}$	3. $\sqrt{289}$	4. $\sqrt{900}$
5. $\sqrt{2601}$	6. $\sqrt{576}$	7. $\sqrt{1089}$	8. $\sqrt{90000}$

③ What is the square of 387?

④ Find the positive square root of 361.

⑤ Find the length of a side of a square whose area is 484 square inches.

英語で数学を学習した感想



### (3) 生徒の感想

- ・ 日本とアメリカで、問題の出し方は全然違うなど思った。
- ・ 私たちが普段解いている問題とは全然違って、びっくりした。英語の勉強にもなって良かったし、楽しかった。
- ・ 数字も大きいし、単位も違って難しかったが、おもしろかった。
- ・ 同じ平方根でも、国によってこれだけ問題の種類が違うことに驚いた。
- ・ いつも勉強している数学よりも大きな桁なので難しい。
- ・ 英語で数学を解くのもおもしろいと思いました。次にこんな機会があればやってみたい。

### (4) 工夫点や配慮点

- ア 導入において、アメリカの定規の実物を見せることで、単位の違いについて興味を引き出せるよう工夫する。
- イ 日本と異なる単位については「摂氏」と「華氏」など、数学に拘らずさまざまな場面があることに気づくように配慮する。
- ウ 英文和訳が目的ではなく、日本と外国の違いについて気づくことが目的であるため、英語を苦手とする生徒には、個別支援を適宜行う。
- エ 事前にALT（外国語指導助手）の協力を得て、学習プリントの内容を理解させる。
- オ 実際に問題を解く際には、英文和訳が目的ではないことを確認する。

## 3 成果

- (1) 「インチ」や「フィート」などの単位を初めて知った生徒が多く見られた。
- (2) 英語が苦手な生徒の中にも、積極的に取り組む生徒が見られた。
- (3) 生徒の感想からは、同じ学習内容でも問題の出し方に違いがあることに気づいた、単位の違いを知ったといった内容が多く見られた。
- (4) 新鮮な感覚をもって他国への興味を引き出すきっかけになった。

## 4 課題

- (1) アメリカと日本の異なる単位について、興味をもつ生徒が多く見られたが、この興味を持続させるために、ものさしの実物を提示するなど指導の工夫が必要である。また、アメリカの教科書の入手は難しく、書店から取り寄せるのに日数を要するので注意が必要である。



「Let's try!」

- (2) アメリカ以外の国への興味も広がると予想されるため、レポートを書かせるのもよい。教科書を実際に見せ、目次のページなどを読ませると、さらに理解が深まるのではないかと考える。このような中から、他国への興味・関心をさらに高めるとともに、異文化理解が深まることを期待する。

## IV 道徳の時間における取組

教科等	テーマ等	学年
道徳	豊かに共生する心	小学校1・2年

### 1 ねらい

- (1) 外国の生活や言葉と出会うことを通して、さまざまな文化を理解し、「豊かに共生する心」をもつ。
- (2) さまざまな文化についての正しい知識を身につけ、積極的に関わろうとする実践的な態度を身につける。

### 2 活動内容

- (1) 「フィリピンと出会おう」 1年生

#### ア ねらい

友だちのお母さんの母国について知り、親しみを感じる。

#### イ 学習の流れ

- 1 地球儀と世界地図を使って、フィリピンの場所を知る。
- 2 フィリピン籍の友だちから、フィリピンに行ったときの話を聞く。
- 3 フィリピンの町の様子が写った写真を見て、フィリピンについて知る。
- 4 フィリピンの挨拶を知り、友だちと交流する。
  - ・マガンダン ハーボン（こんにちは） ・アコ シ ○○（私は○○です）
  - ・タスムタ？（元気？） ・マープティ（元気よ）
  - ・シゲッ（じゃあね）
- 5 フィリピンの遊び（シーパ）を知り、作って遊ぶ。

#### ウ 児童の感想

- ・フィリピンは1年中夏でいいな。
- ・バナナやフルーツがたくさん食べられていいな。
- ・あいさつは難しいけど覚えたよ。おうちの人にも教えてあげたいな。
- ・シーパは、日本のはねつきみたいだね。
- ・○君は、日本にもフィリピンにも行けていいな。
- ・○君のお母さんは、日本語もフィリピン語も話してすごいな。

◇資料：「フィリピンと出会おう」（国土社）

- (2) 「いろいろな国」 2年生

#### ア ねらい

世界中にはたくさんの国があり、いろいろな人々が暮らしていることを知る。

#### イ 学習の流れ

- 1 地球儀を見ながら、知っている国の名前を発表する。
- 2 外国について、どんなところで見たり、聞いたりしたかを発表する。
- 3 外国の人に実際に出会った経験を発表する。
- 4 絵本『せかいのひとびと』の話を聞く。
- 5 学習を振り返り、感想を書く。

#### ウ 児童の感想

- ・ 世界には、いろいろな人がいることが分かった。
- ・ 国がこんなにあるなんて知らなかった。国の名前がもっと知りたい。
- ・ いろいろな国があり、いろいろな人がいることが分かった。みんなちがっているからとてもすてきだ。私も、その中の一人なんだなと思った。

◇資料：『せかいのひとびと』（評論社）、地球儀

#### (3) 「モンゴルのことを教えてもらおう」2年生

講師 豊岡市立日本・モンゴル民族博物館 館長

##### ア ねらい

国語科で「スーホの白い馬」を学習するにあたって、モンゴルの人々の暮らしについて理解する。

##### イ 学習の流れ

- 1 モンゴルのあいさつを習う。
- 2 モンゴルの国土や自然環境、気候、人口について知る。
- 3 パネルや写真集を見ながら、食べ物や遊牧による暮らし方について知る。
- 4 民族衣装を全員が交替しながら着る。
- 5 馬頭琴を鳴らす。

#### ウ 児童の感想

- ・ ゲルの中は、狭くてもストーブやきれいなじゅうたん、ベッドがあつてすてきだな。
- ・ モンゴルの冬の気温がマイナス30度になると聞いてびっくりした。モンゴルの人はマイナス10度くらいなら平気と聞いて、もっとびっくりした。

##### エ 教材・資料

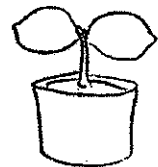
- ・ パネル、写真集
- ・ 馬頭琴演奏のCD
- ・ 民族衣装
- ・ 食べ物の模型
- ・ ゲルの模型
- ・ 食器、おもちゃ等

#### (4) 工夫点、配慮点

ア クラスの友だちから話を聞くことで、外国の話をととても身近に聞けるのではないかと思い、授業に取り入れる。

イ 教材としていろいろな話などを提供してもらった保護者とは、異文化を正しく理解できるように事前に打ち合わせをする。

ウ 幼い時期から異文化理解についての人権感覚を磨きたいと考え、低学年から扱う。



### 3 成果

異文化について、体験的な活動だけでなく、読み物教材を通じて、じっくり考えることができた。

### 4 課題

異文化を理解するために知識中心に進めていったが、考え方や思考判断の違いについても授業の中で意識して扱っていかなければ、「豊かに共生する心」の育成につなげていくことができない。やはり、子ども多文化共生教育を進めていこうとする教師の姿勢が大切である。

教科等	テーマ等	学年
道徳	国際性豊かな心をもとう	中学校1・2・3年

1 ねらい  
相手の立場を尊重し、多様な文化を理解し、国際性豊かな心と実践力をもつ。

2 活動内容

(1) 1学年 題  
アイ ねらい  
世界の交流が、国際的視野をもち、互いの文化や生活習慣の違いを認め、尊重し合う態度を身につける。

(2) 2学年 題  
アイ ねらい  
共に生きる外国人の立場を尊重しながら、互いの文化や生活習慣の違いについて理解し、共に生きようとする意欲や態度を身につける。

ウ 展開例

学習活動	指導上の留意点
1 資料1を対し、タチアネさんの転校ミソ、何度か資料2に対する	私のタチアネさんを変えたとき、私がタチアネさんに話したとき、日本語を教えたとき、私のタチアネさんに変化について考える。
私はタチアネさんの家に行って、どんなことがわかりましたか。	
・ゴミの件で何がわかったか。 ・お母さんがどんな気持ちか。 ・タチアネさんが学校になぜか。	・ハッとしたのはなぜか考えさせる。 ・タチアネさんに対する気持ちの変化に気づかせる。 ・今の私とタチアネさんが同じ立場であることに気づかせる。
誤解が解けたことよりも、二人にとって大切なことは何ですか。	
・二人の間で新しく得たものは何か。	・二人が得た大切なものは何か考えさせる。
3 誰もが学校生活を楽しく送るためにどうすればよいか、自分の考えをまとめ。	・心と心のつながりや信頼関係の大切さに気づかせる。
タチアネさんたちが安心して楽しく過ごすには、どんなことができるか。	
・相手を理解しようとする気持ちと行動 ・コミュニケーションの方法 ・相手の国の文化や生活習慣 ・資料3を読む。	・相手を理解しようとすることやその手段、コミュニケーションの大切さを感じとらせる。 ・同じ年代の中学生の意見を静かに読み聞かせる。

エ 生徒の感想

・外国人という目で見ずに、同じ仲間として接し、日本語がわからなければ、じっくりと考えながらタチアネさんたちに関わりたい。明るく接し、みんなで楽しむ。日本語を教えてと頼まれたら、優しくわかりやすく教えていきたい。

(3) 3学年 題  
アイ ねらい  
異文化の理解 「私が私であるために」(『きらめき』から)  
異なる国や地域は、固有の文化や生活習慣、言語があることに気づき、それらを互いに尊重するとともに、外国人も日本人も自国の歴史や文化のすばらしさを再認識する。また、在日韓国・朝鮮の歴史を正しく理解し、多文化共生への意欲と態度を身につける。

ウ 展開例

学習活動	指導上の留意点
<p>1 迷いの原因を考える。</p> <p style="text-align: center;">金さんは、なぜ迷っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に書いている感想をいくつか発表する。</li> <li>・現在までの日本と韓国・朝鮮の歴史的経緯を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ本名が名乗れずにいたかを考えさせる。</li> <li>・歴史的経緯の中で現在まで引きずっている意識や感覚を感じ取らせる。</li> </ul>
<p>2 金さんが、本名を打ち明けようと思ったのはなぜか、話し合う。</p> <p style="text-align: center;">どうして本名を打ち明けようと思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛香さんのあいさつや紹介</li> <li>・わたしがそこに立っていること</li> <li>・わたくしと聞き取れないふりをしたこと</li> <li>・どうしてこんな自信をもつて</li> <li>・民族としての文化のすばらしさ</li> <li>・自分の国のことを知ってもらふこと</li> <li>・民族としての熱い思い</li> <li>・受け入れている友だち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金さんが転校生の朴愛香との出会いから、何を感じたのかを考えさせる。</li> <li>・朴愛香さんの堂々とした姿を見てい</li> <li>・朴愛香さんの心の中に迫らせる。</li> <li>・朴愛香さんは、民族舞踊に出会えた。たまたまに自分(朴さん)が支えられていることと理解する。</li> <li>・金さんが本名を名乗ろうとするまで</li> <li>・金さんの葛藤を共感させ、まに受け入れ方を大切にすること。</li> </ul>
<p>3 「私が私になったよ。」という金さんの気持ちについて話し合う。</p> <p style="text-align: center;">「私が私になったよ。」に、こめられた思い何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私が私として受け入れてくれる友だち</li> <li>・自分の存在感をしっかりと続けた</li> </ul> <p>4 本名のことと本名を名乗ることの意義について話し合う。</p> <p>5 本時の感想を書いて発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金さんが本名を名乗ろうとする決意するときの気持ちを考えさせる。</li> <li>・金さんが本名を乗せたとき、アイデンティティを確立することについて考えさせる。</li> <li>・お互いの良さを認め合い、信じあえるために何が大切かを考えさせる。</li> </ul>

(4) 工夫点や配慮点

ア 生徒が興味・関心をもち、理解しやすい資料を作成した。

イ 生徒に指導する前に、教師が教材研修会を実施し、共通理解を図るとともに指導力の向上に努める。

3 成果

(1) 道徳の学習を通して、ベトナム人生徒の立場を理解し、手振り身振りで話しかけるなど、関わろうとする生徒がみられるようになった。授業において、回りの生徒が日本語理解が不十分なベトナム人生徒をいろいろな面で支援している。

(2) ベトナム人生徒は、2学期以降、少しずつではあるが日本語が話せるようになり、別室個別指導によるひらがなや簡単な漢字の指導により、意欲的に学習に取り組めるようになった。さらに「子ども多文化共生サポーター」(県教委)や「スタディーサポーター」(市教委)の支援によって家庭との連絡も密になり、楽しい学校生活を送っている。

4 課題

(1) 多文化共生に関する道徳の授業や講演会を通して、互いの違いを認め、共に生きようとする心をはぐくんでいるが、それぞれの学年での成果をふまえ、学年が進むにしたがって生徒の共生の心が一層高まるよう、3年間を見通した指導計画を作成する必要がある。

(2) 外国人生徒が本名を名乗る環境をいかにつくるか、また、諸表簿への本名記載について、本人や保護者の意思等に配慮しながら、教職員の共通理解を図る。

## V 特別活動における取組

教科等	テーマ等	学年
クラブ	異文化にふれよう	小学校456年

### クラブ活動（小学校）

#### 1 ねらい

- (1) ALTとの交流を通して、日常的な英会話に慣れ親しみ、さまざまな文化に関心をもつ。
- (2) 外国の料理を通して文化の違いを理解し、豊かに共生する心をもつ。

#### 2 活動内容

- (1) エジプトの家庭料理「タミア」を作る。（調理クラブ）



料理作りに挑戦

外国人児童の保護者であるAさんを講師に4～6年生児童の料理クラブでエジプトの家庭料理を作る。

Aさんと普段から交流のある地域の方も通訳として、子どもたちと一緒に調理教室に参加する。

◇ 外国人児童の保護者であるAさんは、いろいろ材料を用意し、手早く作って見せてくれた。

でも、ニンニクがたっぷり使っており、すぐに家庭科室がにおいっばいになった。

ぬるま湯に浸し、やわらかくしたそら豆やねぎ、パセリなどをミキサーで挽き、小判形に丸めて油で揚げた。ニンニクの香りがきつかったけど、おいしかった。



一緒に調理

- (2) 英会話を楽しもう（英語クラブ）

ア 日本の伝承遊びを理解し、楽しく遊びながら「日本文化」を伝える喜びを味わう。

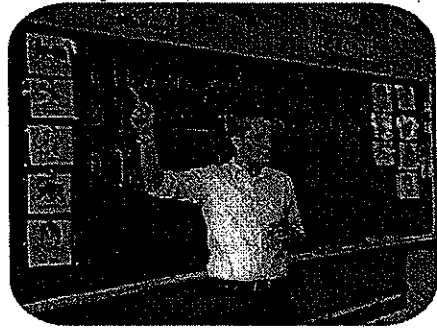
- ① 「かごめ かごめ」
  - ② 「とおりゃんせ」
  - ③ 「けん玉」
- } . . . . . 歌いながら、遊びを一緒に楽しむ。
- . . . . . 一緒に技を練習する。

イ ALTからニュージーランドの生活の様子を聞く。

- ① ニュージーランドでは、家族の手伝いをしっかりしている。
- ② ニュージーランドの子どもたちは、テレビゲームをしない。

ウ 児童の感想

今日は、ALTといっぱい話げできた。ALTは背がなくて体が大きい。はじめは名前を英語で呼ばれただけでドキドキしたけれど、だんだんと慣れてきて楽しかった。



ALTと英会話を楽しむ

(3) 工夫点、配慮点

- ア 授業に講師として外国の人を迎える場合、事前に講師や母語のことについて紹介し、異文化理解につながるように事前指導が必要である。
- イ 日本語理解が不十分な講師には通訳を配置するが、子どもたちには、なるべく通訳を通さず、伝え方を工夫して自分の思いを伝えさせるようにする。

### 3 成果

- (1) 子どもたちは、伝えたい気持ちをもって必死で身振りを入れて伝えようと努力する。その結果、伝わったときの表情はとても満足そうだった。
- (2) 子どもたちは、ふだん伝承遊びに触れることがないので、日本の伝承遊びを紹介する機会を得て、改めて自分たちの文化を理解することができた。
- (3) 英語クラブでは、大変積極的にALTと交流ができ、明るい表情で基本の会話ができるようになった。
- (4) 今後もこのクラブ活動を継続したいという声が多く、意欲的な取組となった。

### 4 課題

- (1) ALTの先生との交流の場を更に増やしていきたい。
- (2) 英語が使えないと外国の人に近寄れないという意識が強く、外国の人との交流に抵抗を感じている子どもが多い。
- (3) 校区内で生活している外国の方々との交流の機会をもつ。

教科等	テーマ等	学年
学校行事	子ども多文化共生音楽会	小学校各学年

## 1 ねらい

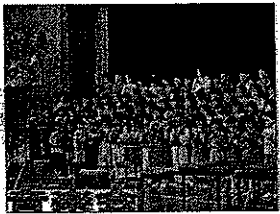

- (1) 子ども多文化共生教育に関する学校の取組を、保護者や地域に公開することにより、地域への啓発に努め、子ども多文化共生教育への理解を深める。
- (2) 音楽会の演奏で取り上げた国への興味・関心を高め、その国への親近感をもつ。

## 2 活動内容

### (1) 音楽会のテーマ

「地球は、ひとつ 宇宙船地球号」をテーマとして、多くの外国の音楽を演奏する音楽会を実施する。学年ごとに日本や外国の楽器演奏、歌、踊りなどを行い、趣向をこらした子ども多文化共生音楽会を実施する。


### (2) 各学年のテーマと活動（演奏）の概要

学年	テーマ	活動（演奏）の概要
1	手をつなごう 世界の子ども たち (合奏)	世界にはたくさんの国があり、人々は、それぞれ髪の色、皮膚の色、話す言葉、文化などみんな違っている。でも、「一人一人が違ってすばらしい！」をテーマに、子どもたちが手をつなぎ「小さな世界」を演奏する。
2	ニーハオ中国 (合唱)	生活科でいろいろな国のことを学習した成果を生かし、中国の曲を演奏したり、中国語で歌を歌ったりする。
3	朝鮮半島に伝 わる民話『三 年とうげ』 (オペレッタ)	朝鮮半島に伝わる民話をオペレッタで演奏する。民族衣装のチマチョゴリやパジチョゴリを着て踊る。 
4	フロムアジア パート2 (合奏)	総合的な学習の時間や運動会でアジアの国々について学習する。ベトナム民謡「美しい竹」を、図工で作った一弦琴を使用して演奏する。  [一弦琴での演奏]

[音楽会]

[一弦琴での演奏]



5	祭りが始まる (和太鼓)	各クラスの音楽の授業で、コンピューターを使って「祭ばやし」に「おはやし」を作曲する。演奏する鳴子や法被も自作する。	 <p>[自作の法被を着て]</p>
6	国籍は、宇宙 「ジュピター」 (合奏)	宇宙から見た一番美しい星は、地球である。しかし、民族や宗教の違いなど、あたりまえのことを認め合えず、テロや戦争で罪もない人々が殺されている。いつの日にか、その違いを認め合い、大切にできる地球にしたい。そんな気持ちを込めて「ジュピター」を演奏する。	

### (3) 工夫点、配慮点

- ア 楽器や服装など、その国の音楽の雰囲気が分かるような演出をする。
- イ 子ども多文化共生教育で学習してきた内容の一部を「せりふ」で紹介する。
- ウ 発達段階を踏まえ、各学年の子ども多文化共生教育の学習内容と関連した曲の選定を行う。
- エ 音楽部を中心に各学年のテーマを調整し、音楽の学習に取り組む。
- オ 1年生などの低学年の楽器練習には、6年生が個別に指導する時間（休み時間、放課後）を作り、異学年交流の場とする。



[高学年に教えてもらう1年生]

## 3 成果

- (1) 各学年、図工、家庭科、道徳、総合的な学習の時間などで、いろんな国のことがらについてふれたり、調べたり、作ったりしたことをこの音楽会の場で曲を通して発表、表現することができた。
- (2) 地域や保護者の人たちに、学校での国際理解教育、子ども多文化共生教育についての取組を公開することができた。

## 4 課題

- (1) 保護者や地域の方々が参加しやすい休日に行う。
- (2) 全学年で趣旨に添ったテーマを設定し、工夫する。
- (3) 音楽部を中心に、多文化共生担当者と連携して企画・運営を行う。

教科等	テーマ等	学 年
学校行事	子ども多文化共生図工展	小学校各学年

## 1 ねらい

- (1) 生活科、道徳、総合的な学習の時間などで調べたり、外国の人とふれ合ったりしたことを、図工の時間に個人、または共同作品として作成し、いろいろな国の文化に親しむ。
- (2) 多文化共生の視点をもとに作成した作品を多くの人に公開する校内図工展を開催し、多文化共生について保護者や地域の方に発信する。




多文化共生コーナー

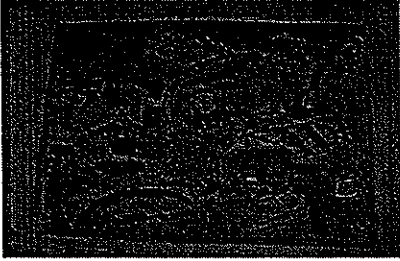
## 2 活動内容

### (1) 図工展のテーマ

「この丸い地球の上で」をテーマとして、外国の生活や文化などを盛り込んだ作品を発表する子ども多文化共生図工展を実施する。

### (2) 各学年のテーマ及び内容

学年	テーマ	内 容
1	みんな友だち	世界にはたくさんの国々があり、一人一人が違ってすばらしい！そんな世界の子どもたちの姿をペットボトルを使って表現する。
2	いろいろな国のお話の絵	生活科で学んだいろいろな国の様子を思い出し、アジアの国々のお話を絵に描く。
3	世界の祭り	総合的な学習の時間で学んだ世界の祭りの様子をもとに、壁面を飾る大きな三枚の絵をクラス単位の共同作品として作成する。  インド牛追い祭り
4	わたしの精霊	総合的な学習の時間において、民族学博物館で見たアボリジニの精霊を参考に、自分たちが想像した精霊の姿を表現する。
5	交流の絵	タイの小学校の児童と本校の児童が「わたしの好きなこと」という同じテーマで描いた絵を相互に並べて展示する。似ているところや違うところなど、興味をもって鑑賞する。

6	もったいない	総合的な学習の時間で、本校の児童が感じた世界の「もったいない」を調べ、環境の大切さを学ぶ。その気持ちを込めて、一人一人作品を制作する。
その他	スリランカ	<p>インドネシア沖大地震の津波による被害を受けたスリランカの子どもたちの作品を展示する。</p> <p>募金を集めてスリランカに送る。</p>  <p style="text-align: center;">スリランカ児童作品（津波）</p>
	タイ	交流先のタイの小学校児童の作品（タイの子どもの日常生活を題材にした絵）を展示する。

### (3) 工夫点や配慮点

ア 各学年の多文化共生に関する学習内容の成果としての図画工作展の作品となるように、学級担任と図画工作専科教員とが打合せを綿密に行い、協力して指導にあたる。

イ 図画工作展の会場に「多文化共生コーナー」を設置して、日頃の子どもたちの多文化共生に関する取組の様子を写真や文などで紹介する。



タイの小学校児童作品

## 3 成果

(1) 総合的な学習の時間で外国について調べたり、外国人と交流したりしたことを絵画や工作で表現した。それを休日の参観日に公開し、多くの地域の人や保護者の人にも鑑賞してもらうことで、地域にも取組を発信することができた。

(2) 外国の児童（津波被害の大きかったスリランカの子どもたち）の作品も展示し、来場者の国際協力への関心が高まった。また、学年ごとに日本や外国の物語、祭り、民族服、国際交流の作品を趣向をこらして作成し、多くの人々に多文化共生の意義について考えるよい機会となった。

## 4 課題

(1) 外国の児童（タイの小学校）との交流を行ってきているが、作品の交換などにかかる時間（お互いの言語への翻訳など）と費用等の問題がある。

(2) 参観者のアンケート（評価）を踏まえ、取組内容を改善する。

教科等	テーマ等	学年
学校行事	異文化理解と共生をめざして	中学校全学年

## 1 ねらい

- (1) 鑑賞や体験を通して、多様な文化を理解し、国際性豊かな心と実践力を身につける。
- (2) 外国人生徒に対する理解を深め、多文化共生の学校・まちづくりの意欲を高める。

## 2 活動内容

### (1) 多文化ふれあいフェスティバル

#### ア 多文化共生についての講演、馬頭琴の演奏と踊り



#### 生徒の感想

- ・ 講師の先生の話は、日本における外国人の人権問題だった。日本人だったら気づかないだろうが、外国人にとっては切実な問題だ。もっと日本人は考えなければならないと思った。
- ・ 馬頭琴の音は、神秘的で聞く人の心をうった。日本にはない音だった。

講師 中国内モンゴル自治区出身

#### イ 中国獅子舞の龍舞の鑑賞と体験



#### 生徒の感想

- ・ 日本の獅子舞とちがって音が激しい。銅鑼を使っているからだ。獅子の動きもユーモラスで楽しい。とても異国的だった。
- ・ 獅子の口にかまれると縁起がいいので、頭をさし出してかんでもらった。日本の獅子舞と似ているところも多い。みんな声をあげて喜んでいたり、わたしも楽しかった。

#### 高校生による獅子舞

### (2) 世界の食文化体験講座

#### ア 講演 「ALT教師（ポーランド人）からみた日本の文化」

当たり前と思っていた身近な日本の文化や生活習慣が、外国人から見ると違って見えるものがあったり、素晴らしいものがあったりする。例えば、学校での生徒集合写真では、必ず男子と女子と別れて写す。贈り物でも「つまらないものですが。」と言いながら渡す。これは、外国人にとって理解しにくいことであるらしい。

## イ 世界各国のクレープづくりと試食

「クレープ」と聞くと、おかしや軽食を連想するが、国によっては主食や副食的なメニューである。また、味付けもさまざま、決して甘いお菓子だけではない。



楽しい試食会

### (3) 人権啓発ビデオ「この街で暮らしたい」(兵庫県人権啓発協会制作)の鑑賞

近年、いろいろな国から来た外国人が私たちの町で暮らすようになってきている。言葉や文化など価値観の違いからさまざまな問題が生まれている。例えば、ゴミを分別して出すことも、外国人にとっては理解しにくい。生活上の問題から偏見が生まれることもある。共に暮らしやすい社会にするために、外国人の生活習慣や考え方、困っていることなどをビデオを通して学習する。

## 3 成果

- (1) ブラジル人生徒が一人在籍し、中学校に入学した当時は、雨がふれば必ず欠席したり、ピアスをつけていたりするなど、日本の中学生の生活習慣とは大きく違っていた。また、生徒とコミュニケーションがとりにくかった。しかし、徐々に友だちも増え、授業や部活動など学校生活に適應するようになってきた。この授業の成果として、『多文化共生』について学習するとともに、毎日そばにいて他の国の文化の違いにふれながら、相手を認め、尊敬し合うことができるようになってきた。
- (2) 国際化が進み、都市から遠く離れた地方でも外国人の姿をよく見かけるようになった。学校においても、外国人教師が常時在籍するようになってきている。そして、私たちの身の回りにも、外国料理や外国製品が街にあふれ、外国の文化にふれる機会が非常に多くなってきている。現在では、都会だけでなく地方においても、多様な文化的背景をもった人々と共生する時代になっている。今回の取組により、回りの外国人と一層の相互理解が生まれてきた。

## 4 課題

- (1) 外国人が住みやすい社会とは、どういう社会や街であるのか。机上の空論に終わらせないために、外国人との身近なふれあいをもっと大切にしたい。
- (2) 外国人に対する情報提供やサービスが不足している。また、互いのコミュニケーション能力を育てる必要がある。

## VI 総合的な学習の時間における取組

教科等	テーマ等	学年
総合的な学習の時間	韓国・朝鮮を知ろう！伝えよう！	小学校3年

### 1 ねらい

- (1) 韓国・朝鮮の文化を見たり体験したりすることを通して、隣国に対する理解を深めるとともに、お互いの国のよさや違いに気づく。
- (2) 韓国・朝鮮人のゲストティーチャーのS先生の話聞いて、韓国・朝鮮について自ら進んで調べ、学んだことを工夫して表現する。

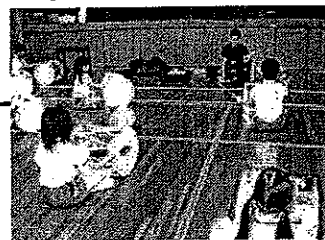


ハングルを書いてみよう

### 2 活動内容

#### (1) 活動計画 (全12時間)

時	学習活動
1	○ 国語「三年とうげ」の学習をふりかえり、もっと知りたいことを発表する。 ・楽器 ・踊り ・服装 ・食べ物
2・3	○ S先生から韓国・朝鮮の文化を学ぶ。 ・踊り ・歌 ・民族衣装 ・チャンゴ ・ハングル
4・5	○ 学んだことを通して、気づいたことや発見したことを発表する。 ○ 調べたことを他の学年にも伝えるために、グループを作り、発表の方法を考える。
6・7・8	○ グループごとに発表の準備をする。もっとくわしく知りたいことやわからないことを調べる。 ・S先生へのインタビュー ・本 ・インターネット
9・10	○ 「韓国・朝鮮発表会」を開き、学習した韓国・朝鮮の文化を発表する。 ・2年生を招待して、韓国・朝鮮の文化のことを教える。
11	○ S先生の気持ちを考え、お礼のビデオレターを作る。 ・S先生は、どんな思いや願いをもって韓国・朝鮮の文化について教えてくれたのだろう。
12	○ S先生からのビデオレターを見て、先生の思いを知る。 ○ この単元を通して、感じたことやわかったことを作文に書く。



チャンゴをたいてみよう

## (2) 学習活動例 (第2・3時)

民族衣装を着よう



チャンゴをたたこう



ハングルを書こう



## (3) 児童の感想

私は、S先生の話聞いて、とってもつらかったんだなあと思った。ベトナム人の私も、名前とかでいじめられたことがあったけど、今の3年生はとっても仲良くしてくれる。私は全部の国を好きになりたい。

## (4) 工夫点・配慮点

ア これまでの学年での取組や国語の学習と関連させながら、韓国・朝鮮の文化に目を向け、興味をもって取り組むことができるようにする。

イ 体験したことや考えたことを自分で工夫した方法で表現することを通して、さまざまな文化についての理解や考え方を深める。

ウ 学習活動の様子を、学級だよりなどで保護者や地域に伝える。子どもたちのがんばりや育ちの姿を伝えるとともに、学校・家庭・地域が連携して子ども多文化共生教育に取り組むきっかけとする。

## 3 成果

(1) 在日韓国・朝鮮人の方々をゲストティーチャーに招き、子どもたちは、チョゴリを着たりハングルを教してもらったり、チャンゴを演奏したりと、実際に体験することによって、そのよさやすばらしさを実感することができた。

(2) 学習後にゲストティーチャーと手紙のやりとりをすることになり、その中で、ゲストティーチャーの子ども時代のことや今の考え方などを学ぶことができた。つらかったこととともに、韓国・朝鮮のことを誇りに思い、国の違いにかかわらず仲良くしてほしいという気持ちにふれることができた。

## 4 課題

子どもたちは、「楽しかった」だけでなく、在日外国人の方の思いや願いに気づき始めている。自分のくらしや家庭の人の姿、思いと重ね合わせながら、多文化共生についての理解を深めていくように、これからも取組を積み重ねていきたい。そのために、自分たちの毎日のくらしの中でのことがらを取り上げたり、家庭の人とともに活動する場をつくったりすることなど工夫していくことが大切である。

教科等	テーマ等	学年
総合的な学習の時間	サワディー（こんにちは）タイに友だちができた	小学校5年

## 1 わらい

- (1) 互いの国で長い間にはぐくまれてきた文化を尊重し、外国人と親しく交流しようとする。
- (2) タイの友だちとの交流を通して、タイの生活や文化、日本との関係に関心を持ち、調べる。
- (3) 体験したり、調べたりした日本の文化をタイの友だちに伝える。

## 2 活動内容

### (1) 学習の流れ（全48時間）

#### ア タイの5年生と交流を始める準備をする。（2時間）

- タイに帰った友だちにビデオレターを送る。
  - ・転校していった友だちに学校の様子を知らせるため、ビデオレターを送る。
  - ・タイの友だちからの返事を見る。
 タイ語の指導員の先生から、タイの学校の様子など、送られてきたビデオを見ながら説明してもらう。
- 交流の準備をする。
  - 絵、写真、ビデオ、手紙などで、言葉が通じないタイの友だちとどうやって交流すればよいかを考える。また、簡単な言葉はタイ語で表現する。

#### イ 便りを送る。（6時間）

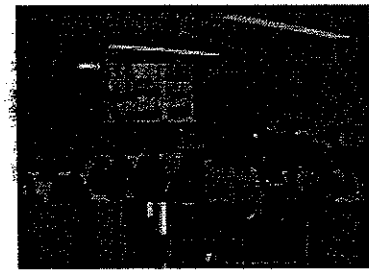
- オリジナル自己紹介カードを作って送る。
  - ・オリジナル自己紹介カードの内容を考える。  
名前、性別、誕生日、好きなことなどを含め日本らしさが伝わるような内容を考える。
  - ・カードを作る。  
自己紹介を書き、自分の好きなものを絵で説明する。



[紹介カードを作る]

#### ウ タイについて知る。（16時間）

- タイについて調べる。
  - タイについて自分の調べたいテーマを決め、インターネットや本を使って調べる。（写真をパソコンに保存する方法を知る。）
- 調べたことをホームページにまとめる。
  - ホームページの作り方を知り、ホームページを作成する。
- お互いのホームページを見る。
  - ホームページを見て分かったことや、タイについてもっと知りたいことを記録する。
- タイからの返事を読む。
  - 受け取った手紙を読み、自分の交流相手について知る。  
分かったことや聞きたいことを整理する。
- タイのことについて質問する。
  - ・クラスごとに質問の内容を考える。
  - ・教師が交流先の学校を訪問し、直接子どもたちに質問を伝え、タイの子どもたちからの質問を受ける。
  - ・教師の訪問の様子を知り、こちらからの質問に対する答えを聞く。



[相手学校のHPを見る]



エ 日本のことを伝える。(22時間)

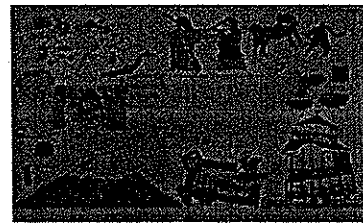
- タイからの質問に答える。
  - ・質問の答えを考える。  
すぐに答えられること、分からないこと、分かるが、もっと調べておきたいことを確認する。
  - ・どんな方法で質問に答え、伝えていくかをクラスごとに話し合う。  
ホームページ、ビデオレターなどの伝える方法や特徴を考え、伝え方を吟味する。
- 日本のことを調べ、日本の文化を体験する。  
三味線体験(音楽科)、茶道体験、剣道体験、昔からの日本のお正月体験(冬休み)をして、日本の文化について知識を広める。
- タイの友だちに日本のことを伝える。
  - ・これまで調べたり、体験したりしたことの中から、タイの友だちに知らせる内容の構成を話し合う。
  - ・タイの友だちへのメッセージを作る。  
各クラスのメッセージを見合う。

オ 交流はこれからだ。(2時間)

- 交流を通じて感じたことを振り返る。  
自分にとって、日本やタイをはじめとする外国について新しい発見があったか、交流を通じて感じたこととは何かを考える。
- これからの交流を考える。  
卒業までにやってみたい交流、卒業してからもできる交流はどんなことか話し合う。

(2) 工夫点や配慮点

- ア 現地校と交流する場合、お互いを理解し合うために、通訳を介して情報を伝え合う。
- イ 交流の方法としてインターネット、ビデオレター作りなどの技術的な指導を取り入れる。
- ウ 相手校とは、できる限りの事前打ち合わせを行った。



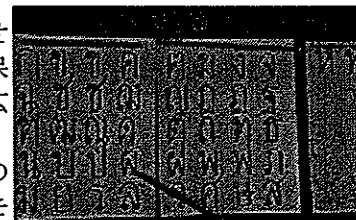
[自己紹介カード]

3 成果

- (1) タイからの転入生が、短い期間の在学中でタイにまた帰ってしまうということをきっかけに交流に取り組んだ。言葉が通じない中で、手振り、身振りで互いの気持ちを通じ合わせようとしてきた子どもたちは、交流の具体的な方法が分からないながらも、教師やタイ語の指導員などのアドバイスで積極的に取り組むことができた。
- (2) 一人のタイの友だちを通して、タイの国の様子や文化の違いを身近に感じ取れるようになり、お互いに認め合う土壌づくりができてはじめて。

4 課題

- (1) 校内では、パネルなどを使って活動の様子を知らせているが、学年だけの交流にとどまらず、全校生、保護者、地域などに活動の様子や成果などを効果的に広める方法を考える必要がある。
- (2) 交流の方法としてインターネットやホームページの作成があるが、技術指導とともに肖像権などの情報モラルの指導を徹底する必要がある。



[タイの文字を知る]

教科等	テーマ等	学年
総合的な学習の時間	アメリカに渡った日本人	中学校1年

## 1 ねらい

日系アメリカ人の外国人指導助手（ALT）の苦勞や生活を知ることを通して、それぞれの国の文化や生活習慣の違いについて知り、日本に在住する外国人を理解するとともに世界の人々が共生するために何が必要かを考える。

## 2 活動内容

- (1) 世界地図でアメリカをさがす。
- (2) ALT作成のプレゼンテーションを見ながら、アメリカにおける日本人の生活を知る。

ア 移住してからの苦勞

イ 戦争中、収容所に入れられたこと

ウ 戦場の最前線で、日本軍と戦ったこと

エ 戦後、大統領からお詫びがあったこと

オ アメリカにおいて、日本の祭りを継続して楽しんでいること

カ アメリカは多国籍国家で、日本人がアメリカ人とだけでなく、いろいろな国の人々と結婚して家庭を築いていること



ALTの友だち

- (3) 工夫点や配慮点

ア 英語教師が通訳を兼ねてサポートする。

イ 質問や感想を書くことで、学習を深める。

### 生徒感想

・私は、「外国へ行ってみたい」とか思うことがあるけど、外国で暮らすことも決していいことばかりではない、ということがわかった。ALTの先生も、日本へ来たときは不安でいっぱいだったと気づいた。もっといっぱい声をかけようと思う。

・一番に思ったことは、アメリカにいた日本人が、自分たちの生ま



全ての日本人を強制収容しようとした

れた国と「アメリカ人として戦争しなければならなかった」その思いである。僕ならどうしたろうか？ 友だちと戦争なんていやだから逃げたかもしれない。日本軍に寝返ったかもしれない。その時代はそんなことも出来なかっただろう。なかよく暮らすためには、平和でなければならぬと気づいた。だから、世界中の日本人のためにも二度と戦争になんかならないようにしたい。



強制収容所は全米に10カ所

### 3 成果

- (1) それぞれの国において、いろいろな国の人々が共生するために一番大切なものは、まず『平和』であることを心の底から感じることができた。
- (2) 出身国と対戦するという第二次世界大戦の渦中、日系アメリカ人としてどんなに悲しかったか、その辛さや苦勞を目の前のALTから聞くことにより「素晴らしい感動」がおこってきた。
- (3) 世代が代わるにつれ、出身国への意識や言語は変わっていった。今生活している国を大切にすべきであると確認した。
- (4) 日系ALT教師の体験を通した話から、アメリカにおける日系人の苦しみや悲しみ、そして、生活の様子を理解することができた。
- (5) 外国にいる日本人の人権を学ぶことから、日本にいる外国人の人権について、より深く考えることができた。
- (6) 身近な日系ALTをゲストティーチャーに迎え、授業を組み立てるという新しい試みは大きな成果を上げた。
- (7) 日系ALTにとっても、自分のルーツについて考え、調べ、自分を見つめ直すよい機会になった。

### 4 課題

- (1) その国の文化や誇りを深く知るためには、歴史を理解しなければならないと痛感する。また、知識を伝えることだけにならないよう、事前学習をきめ細かにする必要がある。
- (2) プレゼンテーションを使って学習したため、体験活動がやや少なかったことが反省点である。
- (3) 明るい展望をもった人権学習により、子どもたちの「やる気」を引き出すことができると考える。日系アメリカ人たちが、力強く生きていた源は何かを考えていきたい。

教科等	テーマ等	学年
総合的な学習の時間	多文化共生講座で異文化を体験	中学校1・2年

## 1 ねらい

外国の人々や文化にふれることにより、自分の国の文化を再認識するとともに国際理解を深める。

## 2 活動内容

### (1) 多文化講座Ⅰ「モンゴル文化入門」(2時間)

#### ア モンゴル文字入門

- ① モンゴル文字の母音と子音
- ② 語頭、語中、語末の文字の変形についての説明
- ③ 50音対応表を使って、自分の名前の表記
- ④ モンゴル語の解読(読み)問題にチャレンジ

#### イ モンゴル文化の紹介

- ① 民族衣装の紹介
- ② 民族舞踊「盃の踊り」の紹介
- ③ 遊び(シャガイ:羊の骨を使った手遊び)の紹介

#### ウ 内モンゴルの地域の様子に学ぶ

パワーポイントを使って、地域の写真や郷土料理、伝統的な住居などを紹介する。

#### エ なんでも質問コーナー

#### オ 生徒の感想

- ・私は、今日の学習で「え〜!」と思うようなことをたくさん知った。塩味のお茶に食べ物を入れて飲むなんて考えられない。
- ・羊の骨とスーパーボールを使った遊びは、すごく楽しかったし、踊りもキレイだった。講師の方は、すごく故郷思いで、とてもいい人だなあと考えた。
- ・モンゴル文字は、パッと見たら意味不明だけど、ゆっくり解読していくと分かってきた。
- ・モンゴル文字は難しかったけど、覚えるのが楽しかった。自分の名前がモンゴル文字で書けるようになってうれしかった。
- ・モンゴルのイメージは、広い草原でテントで生活している人ばかりだと思っていた。モンゴルに外と内があって、中国にモンゴル人がいることを知った。
- ・建物がいっぱいあって、都市になっていて驚いた。



多文化講座



モンゴル文字で名前を書こう



盃の踊り

#### 来ていただいた方

講師：中国内モンゴル自治区出身の留学生  
日本人アシスタント1名  
(NPO 篠山国際理解センター)

### (2) 多文化講座Ⅱ「韓国・朝鮮の文化入門」(2時間)

#### ア 韓国・朝鮮の文化紹介

- (ア) 韓国・朝鮮の概要紹介  
気候、衣装、生活情報など
- (イ) なんでも質問コーナー  
生徒からの質問例



チョゴリ

- ・学校の時間割や制服、部活動について
- ・人気のあるスポーツについて
- ・韓国ドラマや人気のある俳優について
- ・韓国の食べ物、日本の食べ物について

#### イ ハングル入門

簡単なあいさつことばの表記紹介のあとでハングルのしくみを習う。ひらがな50音・ハングル対照表を使って、各自の名前をハングルで書くことに挑戦する。



韓国文化紹介

#### ウ トック (韓国風雑煮) の調理

簡単に作れる韓国風雑煮「トック」を作る。日本でも手軽に手に入れることができる材料を使ったあっさりした味のスープである。その後、講師の方といっしょに会食をする。

#### エ 生徒の感想

- ・ハングルを実際に書いてみると、思ったよりは簡単だった。自分の名前が書けてよかった。
- ・ハングル文字はいっぱいあって、日本人にはとても難しいことが分かった。
- ・韓国にはお父さんが行ったことがあって、韓国の言葉を覚えてもらったことがあった。「アンニョンハセヨ」とか「カムサハムニダ」とか覚えていてよかった。
- ・私は、韓国がとても好きなのでこんな体験ができてよかった。



ハングルに挑戦

来ていただいた方  
講師：地元在住の在日  
韓国人の方  
日本人アシスタント1名  
(NPO 篠山国際理解センター)

### (3) 工夫点

- ア 書くことや実際に遊ぶこと、調理などの主体的な活動を取り入れる。
- イ 実物、実体験、AV機器の利用など、五感を生かした学習を取り入れる。
- ウ NPO法人篠山国際理解センターの方の協力を得て、具体的な文化等を体験できる講座とする。
- エ 外国文化をより身近に感じるために地元在住の方を講師とする。

### 3 成果

- (1) 日本の文化と同じ、あるいは似ているということも、新しい発見であった。体験することによって、外国の文化も身近に感じることができ、異文化を受け入れる抵抗感はずいぶん小さくなったと感じた。
- (2) 回を重ねることで多文化共生に関する意識が高まり、講師から積極的に知識を吸収しようとする態度が見られた。

### 4 課題

- (1) 地域における人材の確保、体験活動内容の多様化など、講座内容を充実させる。
- (2) 生徒が受け身になりがちなので、表現活動等を取り入れ、異文化理解を深めたり、多文化共生の意識を高めたりするような工夫が必要である。

## VII 小・中学校の連携による取組

教科等	テーマ等	学年
特別活動	A L Tとのふれあいを通して	小学校

### 1 ねらい

中学校のA L Tと英語教師が小学校で授業を行い、外国人と直接ふれあうことで、小学校から外国の言葉や文化にふれ、異文化に興味・関心をもつ。

### 2 活動内容

#### (1) A L Tの自己紹介

#### (2) Halloweenについての説明

ア いつ? 10月31日

イ Halloweenとは?

- ・先祖の霊が戻ってくる。 <A L Tと中学校の英語教師による授業>
- ・先祖の霊以外に悪い霊(お化け、幽霊など)もやってくる。

ウ jack-o'-lanternとは?

- ・悪霊を追い払う
- ・先祖の霊が家へ戻ってこられるように jack-o'-lanternの中にロウソクをとます。

エ その他にどんな事をする?

- ・先祖のお墓を掃除し、飲食物を供える。
- ・子どもたちは、お化け等の仮装をして近所の家を訪問し、“Trick or treat!”と言ってキャンディーなどをもらう。

#### (3) ゲームをしながら “I like ~.” の練習をする。

A L Tの説明の英文に出てきた Halloweenに関する言葉を使ったゲーム  
bat, black cat, witch, ghost, skeleton

<ゲームの方法>

- ① A L Tが bat と言うと、児童は「こうもり」の動作をしながら教室の中を動きまわる。
- ② ペアを作り、お互いに “I like bats.” と言う。その後、じゃんけんをする。
- ③ じゃんけんに勝ったら、次の black cat (黒猫) の動作をして、同じ black cat の児童とペアを作り、“I like black cats.” と言う。  
じゃんけんに負けたら、再び bat の動作をしながら同じ bat の児童とペアを作り、“I like bats.” と言う。

このように、じゃんけんに勝ったら次の語の動作をしながら、同じ動作をしている児童を見つけてペアを作り、“I like ~.” と言う練習をする。

じゃんけんに勝ってすべての動作をした児童が勝者 (winner) となる。



「じゃんけんぼん！」

#### (4) ワークシートをする。

ア A L Tより Halloweenに関する語、提灯 (jack-o'-lantern) 幽霊屋敷 (haunted house) 魔女 (witch)・・・を聞き、その語を表す絵に番号を書く。

イ Halloweenに関する簡単な質問に日本語で答える。

(5) まとめ

魔女の帽子や jack-o'-lantern のマスクをかぶって ALT に "Trick or treat!" と言う。

言えたら、ごほうびにキャンディーのかわりに、お菓子の絵のシールをもらう。



(6) 児童の感想

楽しいゲームで英語を覚えた。あっという間に時間が過ぎたけど、ハロウィーンの事がよくわかっていい交流になった。

ハロウィーンは、英語でお盆と同じような意味合いをもつということにびっくりした。お菓子のシールがもらえるように、かぼちゃのお化けや魔女になって "Trick or treat!" と言った。楽しい1時間だった。

「お菓子をくれなきゃいたずらするぞ!」

お菓子をもらうのは知っていたけど、カボチャをくりぬいて提灯にするとは知らなかった。次の11月1日と2日には、日本と同じお盆やお彼岸のような行事を行うと知った。ハロウィーンのとくに、黒いネコを見たら、災いが自分に起こるから気をつけるようにするということを知った。

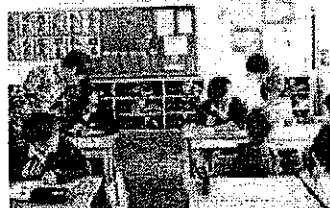
(7) 工夫点や配慮点

ア 異文化である Halloween を正しく理解できるよう、絵を見せながらの ALT の説明に加え、実物の jack-o'-lantern を準備する。

イ ゲームをしながら楽しく、自然に異文化にふれるようにし、最後にワークシートで理解を深める。

ウ 英語中心の授業なので、児童たちがふだん何気なく聞いたことがあると思われる言葉や表現をできるだけ使うようにする。

エ 英語での発表のときには、興味・関心をもって積極的に発表できるよう、小道具 (jack-o'-lantern のマスク、魔女の帽子のマスク) を準備する。



「お面をかぶって変身だ!」

3 成果

(1) 児童たちは、初めて出会った ALT に親しく接することができた。

(2) Halloween が日本のお盆によく似た行事であることを知った。そして、最近、日本でも広がっている Halloween の本来の趣旨を知ることができ、大変興味をもったようである。

(3) 異なる文化の中にも日本と同じような行事があることを知り、他国の文化について学習しながら、自分たちの文化についても再確認することができた。

4 課題

(1) 今回は、ALT の協力が非常に大きかったが、さらに多くの文化にふれさせるためには、地域の外国人の協力が必要である。

(2) この取組を次のステップへどう結びつけ、児童たちに異文化の体験学習を進めていくかが課題である。幼稚園とも、このような連携した取組をしていきたい。



「はい!はい!はい!」

## Ⅷ 家庭や地域と連携した取組

職員研修	テーマ等	学年等
	体験教室を通して	小学校

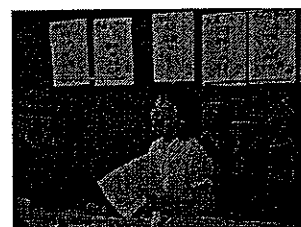
### 1 ねらい

- (1) 外国人保護者や職員、子ども多文化共生サポーターが交流することで、相互の理解を深める。
- (2) 子ども多文化共生教育について、教職員や保護者の意識を高める。

### 2 活動内容

#### (1) 研修講座とその内容

講座名	内容及びその概要
「タイ文化体験教室」	<p>本校PTA共催で「タイ文化体験教室」を開催する。講師の先生は、タイの留学生とタイ人の保護者2名である。事前にPTAと一緒に準備物や会の進め方について打ち合わせを行う。</p> <p>また、タイの物産等を大阪に買い出しに行く。前日にはリハーサルを行い、当日は、服装、食べ物、さまざまな文化、遊び等を紹介する。</p> <p>特に気をつけたことは、五感で体験することである。タイ語の会話コーナーでは、二人一組で自己紹介を行い、身振り手振りを交えてコミュニケーションを行う。</p> <p>タイのゴム遊びは、日本のゴム遊びと似ていてとても楽しい。タイの民族服試着コーナーでは、一枚の布が服になるのを見て、みんなが驚く。</p>
「中国文化体験教室」	<p>教職員研修として、家庭科室で「中国文化体験教室」を開催する。講師の先生は、伊丹市適応指導員（中国語）と中国人の保護者6名である。事前に中国人の保護者と準備物や会の進め方について打ち合わせを行う。</p> <p>当日は、餃子作りをとおして、中国と日本の食文化の違いに気づき、互いの文化を尊重し合う中で交流を深める。中国では、一般的に餃子は水餃子である。皮の厚さやゆでかげん、具の作り方などを比較しながら会話がはずみ、和やかな研修会となる。</p> <p>試食後、「日本と中国の似ているところ、違うところ」というテーマで、伊丹市適応指導員による講話を行う。</p>





<p>「中国文化体験教室 Part II」</p>	<p>中国人保護者に調理実習の計画から仕入れまでの段取りを全て任せる。2回目ともなると、保護者も職員も打ち解けた雰囲気の中で、料理を作る。</p> <p>肉まん、トマトと卵スープ、麻婆豆腐がメニューであるが、日頃から中国料理を手がけている保護者の手際の良さやできばえに感心する。トマトに熱を通して食べる料理や香辛料をふんだんに使った麻婆豆腐など、食文化の違いにふれながら交流を行う。</p> <p>最後に、伊丹市適応指導員から、この研修の意義を感想を交えながら話してもらって締めくくる。</p>
---------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



## (2) 工夫点や配慮点

ア 教職員研修会は平日に行うので、できるだけたくさんの保護者が参加できるように、無理のない日程を事前に調整する。

イ 保護者と職員のコミュニケーションがスムーズに行えるよう、中国語の適応指導員にも参加してもらおう。

## 3 成果

(1) タイ文化体験教室の最後の質問コーナーではたくさんの質問を受け、関心の高さを感じた。

P T Aや保護者にとっても、タイのことを知るだけでなく、外国人保護者のことを知るよい機会となった。



(2) 調理をしながら、職員と保護者、保護者同士で会話が進み、楽しくコミュニケーションが図れる。[保護者との事前打ち合わせ] 講話の中で、中国のことについての理解が深まる。

## 4 課題

(1) 日常的に外国人保護者と地域の保護者との交流が増えるような手だてを学校がどの程度まで担えるのか考える必要がある。

(2) 学校での取組を幅広く保護者や地域に発信し、理解を得るようにすることが大切である。

(3) 今後、中国やタイだけでなく、フィリピンなど国籍している外国人児童の国の文化についても学べるように計画していく必要がある。

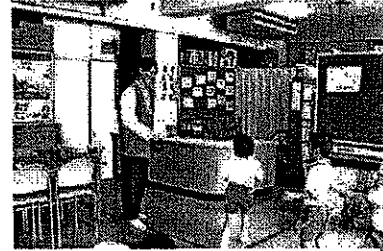
教科等	テーマ等	学年等
特別活動	多文化交流フェスティバル	小学校

## 1 ねらい

(1) 子どもたちや地域にかかわりの深い国の文化にふれ、  
親しみをもつ。

(2) 保護者や地域の方とともに多文化共生について考える  
機会とする。

(3) 日本以外の国にルーツのある子どもたちは、自分の国  
を大切に思う気持ちをもつ。



コリアの遊び「チェギチャギ」

## 2 活動内容

### (1) 活動の流れ

ア 低学年・高学年に分かれて活動する。

イ 6つのコーナーから2つ選んで体験する。

ウ 保護者や地域の方は、自由に参加してもらおう。



ベトナムの遊び「チャイチェイン」

1～3年 (3・4時間目)	4～6年 (5・6時間目)	活動内容・流れ
10:45	13:40	体育館へ移動
10:50	13:45	はじめの集い (体育館) ・あいさつ ・ゲストやコーナーの紹介 ・やくそく ・各コーナーへ移動
11:05	14:00	前半
11:30	14:25	休憩・移動
11:35	14:30	後半
12:00	14:55	おわりの集い (体育館) ・感想タイム ・ゲストからメッセージ ・あいさつ ・各教室へ移動
12:15	15:10	各教室で感想を書く。

## (2) 児童の感想

- ・ハングルでしおりをつくった。Aちゃんが「韓国のことばでAちゃんの名前ってどういうの？」ってゲストの先生に聞いたら、「ヘウオン。韓国でかわいい名前だよ。」って言ってくれた。わたしも聞いたら「サンリ」って言ったので、かわいいと思った。
- ・ベトナムや韓国・朝鮮の服を着て楽しかった。おかあさんに「服、にあってるね。」と言われた。ベトナム語のカレンダーも家にかざりたい。

## (3) 工夫点や配慮点

- ア 学校の実態に合わせて、子どもたちや地域とかかわりの深い国の文化を取り上げる。
- イ 授業公開デーのときに実施し、保護者や地域の方もいっしょに参加できるようにする。特に、ベトナムや韓国・朝鮮にかかわりのある保護者には、事前に説明や呼びかけをし、その思いや願いを聞くとともに参加・協力を依頼する。
- ウ 事前にゲストティーチャーと教職員が打ち合わせを行い、活動内容について話し合うだけでなく、それぞれの文化について学んだり、ゲストティーチャーの思いや願いを聞いたりすることを大切にする。
- エ 体験的な活動を通して、それぞれの国のよさや違いを実感できるようにする。一人一人が十分に体験できるように、少人数でのグループ編成とする。

## 3 成果

- (1) 子どもや地域の実態に合わせて、取り上げる国やテーマを少しずつ変えながら取り組んできた。その中で共通して大切にしてきたことは、「地域や保護者と連携し、人と出会いかわる場をつくる」「体験的な活動を通して、それぞれのよさや違いをより実感できるようにする」ことである。実際には、地域の外国人支援団体や子ども多文化共生サポーター、保護者の方々をゲストティーチャーに招き、活動に取り組むことができた。
- (2) 子どもたちは、ゲストティーチャーとかかわることを通して、ベトナムや韓国・朝鮮の文化に親しみをもつことができた。また、保護者や地域の方からも「初めて知った」「楽しかった」という感想を聞くことができ、ともに異文化理解を深めることができた。



ベトナム語でカレンダーづくり

## 4 課題

- (1) 「楽しかった」だけで終わらないように、日々の取組や子どもたちの暮らしと関連づけていくことが大切である。そのために、子ども多文化共生教育の年間計画に明確に位置づけ、実践する。
- (2) 活動内容をより充実したものにするために、保護者や地域との連携を深め、ともに取組を進めるネットワークをつくっていく必要がある。そして、学校での取組を地域の活動へとさらに広げていきたい。

教科等	テーマ等	学年等
特別活動	地域在住の外国人との交流	小学校

## 1 ねらい

多文化共生を理解し、共により関係で生活できる環境を整えていくことを考え、実践できる態度を身につける。

## 2 活動内容

### (1) 在日外国人を招いて

#### ア 平成17年(2005年)

- ① 演題 「日本の子ども ドイツの子ども」
- ② 講師 地域在住の外国人(ドイツ)
- ③ 対象 保護者



ドイツの教育について

#### ④ 内容

- ・ 中学校ぐらいで進路を決定し、専門教育を受けるシステムになっている。
- ・ 午前中の授業だけで、カリキュラムが組まれている。
- ・ 午後からの過ごし方は、各家庭に任されている。わが子にいろいろな力をつけるために塾やお稽古ごとを習わせている。
- ・ 日本のように国が教育方針(学習指導要領)を示すのではなく、各州ごとに教育方針が出され、その方針のもとで教育が行われている。

#### イ 平成18年(2006年)

- ① 演題 「十人十色みんなちがってみんないい」
- ② 講師 地域在住の外国人(ニューギニア)
- ③ 対象 6年生児童とその保護者



ジャズ演奏

#### ④ 内容

- ・ サッカーが大好きで、ずっと続けたかったが、怪我をしてプレーできなくなる。その時、子どもの頃に母から厳しく教えられたピアノを弾くことが、励みになる。
- ・ 肌の色が違うことで、差別を受ける。

## (2) 多文化交流運動会

### 《児童の感想》

なぜこの運動会に行こうと思ったかという、友だちが誘ってくれたのもあるけど、去年も行って外国の人と話をしたり、一緒に競技に出たりすることが楽しかったから。今年もたくさん話せた。英語を習っているの、習った英語が使えるのが楽しかった。来年も参加して、外国の友だちを増やしたい。



多文化交流運動会

休憩の後に、フォークダンスをした。すると、後ろのジャマイカから来られた人は、その歌を歌っておられ、おもしろい人だった。ダンスを踊りながら、友だちになった人もいる。今日一日たくさん友だちができ、楽しい一日だった。

## (3) 工夫点や配慮点

- ア 地域への多文化共生を浸透させるために、運動会の案内ポスターを校内掲示するとともに、参加対象学年の家族に呼びかけ、多くの参加を募る。
- イ 言葉に対する抵抗が強いので、外国の人とのコミュニケーションがとれるように3カ国語(中国語、英語、ポルトガル語)の「こんにちは」「ありがとう」をプリントにして事前に配布する。

## 3 成果

- (1) 子どもたちは、地域在住の外国の人の話を聞くことで、外国人の人権問題を遠い国の話ではなく身近な問題として考えることができた。
- (2) 参加した保護者が、講演での内容を家庭にもち帰り、家族との話題にしてもらえたようで、地域への国際理解のきっかけをつくることができた。
- (3) 日本との違いに気づくと同時に、自分たちにとって日本ってどんな国なのかを知る機会になった。

## 4 課題

- (1) 今後の取組として、日本人が語る外国だけではなく、この企画のように外国の人に日本を語っていただく機会を多くつくり、国際社会に生きる「わたし」の在り方を見つめる必要がある。
- (2) 多文化にふれる、自分と違うものを受け入れるという意識づくりが求められるよう今後の指導を工夫していかなければならない。
- (3) 一つの行事にたくさんの子どもが関わることができず、子どもたちがかかわる機会を均等にとしたいと思うと行事の回数が増え、なかなか運営が難しい。もっと気軽に、自然な交流の在り方を考えていく必要がある。

教科等	テーマ等	学年等
特別活動	自国の料理、自国の食文化を伝えよう	中学校

## 1 ねらい

- (1) 子どもが本校に在学している外国の人たち（フィリピン、台湾、ペルー）の思いや願いを理解する。
- (2) それぞれの国の料理を味わうことを通して、食事がもつ意味や文化的な背景、その料理に対する人々の思いを知り、異文化理解を深める。
- (3) 母国の文化のよさを再認識する。

## 2 活動内容

### (1) 生徒を講師とした場合

- ア 募集方法：全校生から受講希望者を募り、冬季休業中に実施する。  
 イ 実習内容：クリスマス料理＝アロス コン ポージョ（米と鶏肉）

#### 材料名

米・鶏肉  
 塩・油  
 にんにく  
 にんじん  
 グリンピース  
 ほうれん草  
 クラントロ  
 玉ねぎ  
 きゅうり

#### 作り方

- ① 鶏肉を少し焼く。
- ② にんじん・玉ねぎ・にんにくをみじん切りにする。
- ③ ほうれん草とクラントロをミキサーにかける。
- ④ 鶏肉、油、にんにく、にんじん、玉ねぎを鍋に入れ、火にかける。
- ⑤ ④に③を加え、鍋の蓋をして煮る。
- ⑥ 鶏肉を取り出した残りを、米に加え普通に炊く。
- ⑦ 炊きあがり直後に、鶏肉をほぐして加える。
- ⑧ きゅうりの薄切りを上かけるとよい。

### ウ 実習形態

- ① 在校生二人が説明しながら、実習をすすめる。
- ② 作り方は、スペイン語と日本語の両方で説明をする。
- ③ 実際にその料理が食べられる場面（これはクリスマスの食事）の説明をする。



実習の準備中

### エ 生徒の感想

- ・緑の色彩に驚いた。正直言って、こわごわ口にした。試食してみると“洋風の炊き込みご飯”だった。おいしくておかわりをした。
- ・初めて食べた味であり、特に見た目にビックリした。“生のキュウリのトッピング”なんて考えられないと思ったが、食べてみると案外いけるものだった。
- ・ナイフを宙で浮かしてから使っているのには、ビックリした。まな板を使わなくても切れていたから、まな板を洗う手間が省けていいかもしれないと思った。
- ・クリスマスは、ケーキを食べるだけではないことを知った。

(2) 保護者を講師とした場合

ア 募集方法：地区別懇談会の行事として設定する。

実習については、生徒も自由参加とする。

イ 実習内容：① 豊富なトロピカルフルーツを用いたフィリピンのデザート

② 団子と芋をココナツミルクの中に入れて白玉入り芋スープ

ウ 実習形態：講師として、本校在籍生徒の保護者（フィリピン出身）をお願いする。

生徒や保護者も、グループごとに実習を進める。

お手伝いとして、友人（台湾出身）にも、自国のお茶の入れ方について紹介をしてもらう。

エ 生徒・保護者の感想

- ・たくさんの果物が入ったデザートは、ふだん食べないような果物もたくさん入っていたが、おいしく食べることができた。
- ・いもスープは、材料の芋を見たときびっくりした。これをスープの中に入れるのかという感じだ。スープは白い牛乳の甘いもの。少し独特の匂いだったので、少しだけ入れた。案外おいしく食べられた。
- ・生徒の食べ物に対する興味・関心がよく分かった。最初、「え～」とか言って指先でつまんでいたが、やっていくうちに夢中になっていた。近所に住んでいてもなかなか話す機会もないので、いっしょに作りながらいろいろな話があった。

(3) 工夫点や配慮点

ア 料理は、生徒たちが多少慣れ親しんでいるもので、フィリピンの特徴が含まれているものとして依頼する。

イ 準備は、入手しにくいものについては講師にお願いし、それ以外のものはこちらで用意する。

ウ いつも受け身の立場でいることが多い外国人の保護者が、前に出て主導的に活動できる場とする。

エ 母国語をみんなの前で話す機会とする。

### 3 成果

(1) 試食という穏やかな雰囲気の中で、参加した生徒からはいろいろな質問が出され、素直に国や文化の違いについて理解することができた。

(2) 文化の違いを身をもって体験できたことで、「外国の料理を家でも作ってみたい」・「将来必ずその国に行ってみたい」など、外国に対する関心を高めることができた。

(3) 地域の母親も参加し、外国人の保護者とともに料理をしながら、お互いの考え方や文化の違いがあるなかで、より一層の相互理解が図られた。

### 4 課題

(1) 実習室の大きさから、調理参加人数に限られる。

(2) 少し時間がかかる料理(クリスマス料理)の場合、生徒たちが実際に料理した部分が少ない。また、材料は入手しにくいものもあり、サポーターの先生にもかなりの時間を費やしてもらう。参加人数や時間を考えて、調理する料理を考える必要がある。

(3) その国と日本の違いを考えると、マイナスのイメージをもたせないようにする配慮が必要である。

(4) 食材購入先などの情報を提供することも必要である。

## Ⅸ NGO/NPO等関係機関・団体と連携した取組

教科等	テーマ等	学年
特別活動	異文化活動を通して	小学校

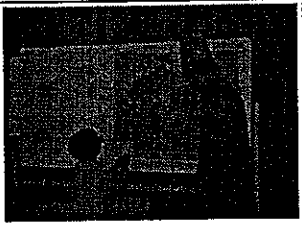
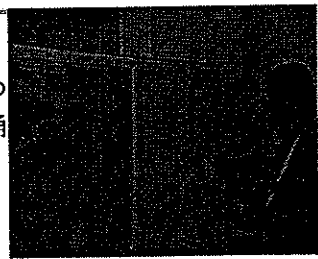

### 1. ねらい

日本及びさまざまな国の遊びや祭り等、異文化にふれ尊重する態度を身につける。

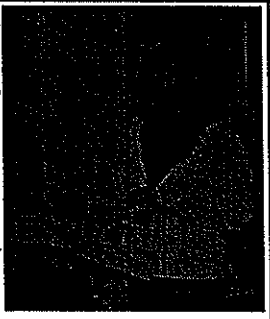
### 2 活動内容

(1) 本校では、さまざまな関係機関・団体等の協力を得て、多くの人材を確保している。特に大阪大学留学生センターとは、定期的に交流を行っている。授業や国際理解講座、外国人児童の保護者との教育相談など、さまざまな取組を連携して実施している。

#### (2) 留学生センターからの派遣人材の国名と学年の学習活動の概要

学年	国名	テーマ及び学習活動の概要
1	中国 韓国・朝鮮 ネパール イラン	「世界中みんな友だち」 挨拶、民族服、数え方を教えてもらい、最後にジャンケン遊びをしながら、似ているところと違うところを知る。  ネパール
2	中国 韓国・朝鮮 カナダ	「世界の遊びを体験しよう」 3つの国の子どもの遊びを学び、一緒にしながら、似ているところと違うところを確かめながら交流する。
3	中国 スリランカ ブルガリア 韓国・朝鮮 タイ	「ワンダフルカーニバル」 世界のお祭りについて調べる。その国の大きなお祭りや行事について、その意義やその時に踊る踊りも学ぶ。  スリランカ
4	中国 韓国・朝鮮 カナダ キューバ	「もっと知りたい身近な国」 挨拶、民族服、数え方、食べ物、遊びなどを学びながら、それまでに体験していた日本文化（お茶、着付け、三味線）を紹介して交流する。  キューバ



5	タイ	<p>タイの「シリキット王妃60才誕生日記念小学校」に学校紹介ビデオや手紙を送る。お返しに図工展展示用図画と児童プロフィールが送られてくる。その作品を鑑賞しながら解説してもらう。</p>	 <p style="text-align: center;">便りの解説</p>
6	タイ	<p>タイの「チョムチョンバーントウンポー小学校」の子どもたちとクリスマスカードの交換をする。学年で、送られてきたクリスマスカードの紹介をしあい、内容の解説をしてもらう。</p>	

(3) 工夫点、配慮点

ア さまざまな国の人と交流するに当たっては、国別、日程、学習内容など事前に綿密な連絡調整を留学生センターとする。

イ 交流の場面では、教師主導で学習を進めるようにし、ゲストティーチャー任せにならないように心がける。

3 成果

(1) 各学年の子ども多文化共生教育の実践において、必要とする外国人ゲストティーチャーを招いたことで、調べたい国のことがよくわかり、体験学習した国や日本の文化に対して共感が深まった。

(2) 学年の取組の進度や、学年が希望する国、日程などの調整で留学生センターとの打ち合わせも活発になり、相互に理解が深まった。

(3) 留学生センターからの派遣がきっかけで、外国人児童の保護者との教育相談など、継続的な人間関係をつくる基盤ができた。

4 課題

(1) 学習の進度に合わせて、交流日程や交流希望国などについて学年間の調整をしながら、留学生センターと効率的な打ち合わせをする必要がある。

(2) ゲストティーチャーに資料などを準備してもらう場合、交流の内容（学習の流れ）などについて、細かく連絡調整をする必要がある。

教科等	テーマ等	学年等
特別活動	地域に異文化理解を広めるために	中学校

## 1 ねらい

多様な文化を理解し、豊かな国際感覚と実践力を身につける。

## 2 活動内容

### (1) 多文化共生講演会

ア 講師 Yさん (NPO法人篠山国際理解センター)

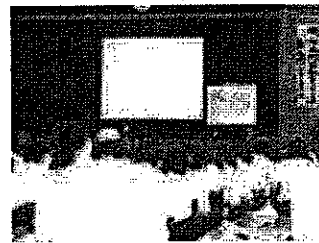
- ・演題 「子ども多文化共生サポーターとして」
- ・内容 ① ブラジルの子どもたちの学校生活や日常生活の紹介  
② 自らの経験から「日本の文化や歴史をよく学習し、自分の国に自信をもって外国の人たちと交流してほしい。」という内容

### イ 生徒の感想

最初に登場してきたとき、何語を話しているのか分からなかった。「ポルトガル語」と聞いたときびっくりした!! ブラジルなのに、なぜポルトガル語なんやろ。ブラジル人は黒人というイメージがあったけれど、金髪だったり、肌の色が白かったりしている人たちがいた。ブラジルに貧しい子どもがいると聞いて「えっ?!」と思った。

学校に行きたくても家の手伝いや仕事でいけない子どもがいたり、小学校から落第があったりと、私たちとはずいぶん違う。私は勉強するのが嫌だけれど、ブラジルには勉強したくてもできない子がいて、いろいろと考えさせられた。

私の家の近くにブラジル人じゃないけれど、黒人の人が住んでいる。いつも会ったらあいさつをしてくれる。日本人とも、外国の人とも助け合い、仲良くしていきたいと思った。



多文化共生講演会

### (2) 「夢ビジョン東・フェスティバル」(多文化交流フェスティバル)

ア 学校と地域が連携し、子どもを含む地域住民の「豊かに共生する心」を育てる子ども多文化共生教育の推進の一環として実施する。毎年5月から、自治会、各種団体、学校園所、公立施設等の校区のすべての組織の代表が中心になり、「夢ビジョン東・フェスティバル」実行委員会を組織するとともに、綿密な打合せを行いながら開催している。

#### イ 食文化の交流

西播朝鮮初中級学校のオモニの会の方々の協力を得て、チヂミやキムチの販売を行う。中学生のボランティアとオモニの会の方々により、日本と韓国・朝鮮の食文化の交流体験を実施する。参加した多くの中学生や小学生、住民にとって、貴重な異文化体験の場となる。

また、西播朝鮮初中級学校の生徒も、地域の方が出店されている模擬店のおでんやたこ焼きを食べ、多くの地域の人々との交流の場となる。

#### ウ 芸能文化の交流

地域の和太鼓や獅子舞に西播朝鮮初中級学校（民族舞踊部）の生徒の民族舞踊と楽器演奏を行う。初めて目にする民族舞踊の素晴らしさに感心し、二つの国の文化を体験する。

このような体験から、それぞれの国の文化にふれると同時に心の温かさにふれる機会となる。

#### (3) 工夫点や配慮点

ア 多数の地域の人々に参加してもらうため、啓発パンフレットを全戸に配布する。

イ 各種団体の責任者が参加の呼びかけをするとともに、自治会放送を通じても啓発を行う。

### 3 成果

(1) 実行準備委員会等で自治会や各種団体が会合をたびたび実施することで、「夢ビジョン東フェスティバル」は地域の話題となり、外国人住民を含めた地域住民の連帯意識が生まれてきた。

(2) 地域住民が外国人生徒や保護者に対し、地域行事を通して異文化理解が深まってきた。

### 4 課題

外国人住民を含めた校区の住民が、住みよいまちづくりを実現するために、自治会を中心とした各種団体が常に人権の視点を大切にしつつ連携を深め、地域・世代を超えた多くの参加者を集める必要がある。特に20歳代、30歳代の住民に強く呼びかけ、参加者を増やす必要がある。



西播朝鮮初中級学校の生徒による民族舞踊



オモニの会による模擬店



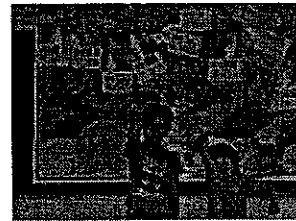
ボランティアに参加する生徒たち

## X その他

テ ー マ 等	学 年
給食の献立を通して	小学校

### 1 ねらい

- (1) いろいろな国の食文化にふれ、それぞれの国の特徴を知り、違いを受け入れようとする気持ちをもつ。
- (2) いろいろな国旗を調べたり、クイズづくりをしたりすることによって、それぞれの国に対する興味をもつ。
- (3) 日本と外国との関係に興味・関心をもつ。



### 2 活動内容

- (1) 給食献立 10ヶ国のメニュー

給食センターの企画で、サッカーのワールドカップにちなみ、6月5日(月)～6月16日(金)の2週間、世界の料理を提供する。

献立の国はどこ

- (2) ワールドカップメニュー

曜日	国名及び主なメニュー	曜日	国名及び主なメニュー
月	《 韓国 》 ビビンバ キムチスープ たくあんのピリ辛 ☆	月	《 日本 》 ちらしずし ヒレカツ すまし汁 和風あえ 味付けのり ☆
火	《 インド 》 ターメリックライス ウズラ卵 串フライ キーマカレー ☆	火	《 ブラジル 》 ルランゴ・ア・パスアリーニョ・カルル グリーンサラダ ☆
水	《 イギリス 》 ミートローフ ハムサラダ キャベツのスープ煮 ☆	水	《 メキシコ 》 メキシカンライス 白身魚のフライ チリコンタン フルーツサラダ タルタルソース ☆
木	《 フランス 》 レーズンパン 鮭のプロバンス風 サラダ・ボンム・ド・テール コンソメスープ ☆	木	《 アメリカ 》 バンズパン 網焼きハンバーグ アボカド入りサラダ グレープフルーツ スライスチーズ ☆
金	《 イタリア 》 ピザ シーフードサラダ スパゲティーミートソース ☆	金	《 中国 》 エビのマヨネーズ和え 八宝菜 ハンサンシー びわ ☆

☆は主食(ごはん、パン)牛乳など

- (3) 児童の感想

・やっぱりインドの料理は、辛いカレーがつかってある。  
・『サラダ・ボンム・ド・テール』って名前、いかにもフランスの料理って感じだ。

(4) 国旗の色塗りをしよう

上記の献立の国に合わせて国旗の図を配布し、自分で色を調べ、塗る作業を行う。子どもたちは色を調べるために、ふだんあまり手にすることのない地図帳を開くきっかけとなる。

(5) 世界地図を開こう

意欲旺盛な子どもたちは、さらに、その国がどこにあるのか調べたり、その近くにある自分が知らない国名に興味をもったりする活動が見られ、地図帳を大いに活用する週間ともなる。また、国旗の一覧表から似た国旗を見つけ、その『不思議』に興味をもち、図書室や家庭での調べ作業を進める子どもも見受けられた。

(6) 児童の感想

- ・今日はイタリアの国旗の色塗りした。イタリアの国旗は、右から赤、白、緑だ。それと同じ色遣いの横しまで、上から白、緑、赤の国旗がブルガリアという国だった。ブルガリアという名前は聞いて知っていたが、世界のこんな場所、こんな国旗だったことを初めて知った。世界の国旗を見ていると、ヨーロッパ州、アフリカ州、アメリカ州でよく似たデザインの国旗がある。また、イギリスの国旗が、国旗の中にはめこまれた国旗もある。国旗を見るだけで、国のつながりがわかるような気がし、どんな国なのか調べてみたくなった。
- ・今日も、家に持って帰ってお母さんと国旗のプリントに色ぬりをした。今日は日本だった。簡単にぬれた。

(7) クイズにチャレンジしよう

国旗のプリントの下に、豆知識になるものやクイズを記載する。

[例]

- ・いろいろな国の「こんにちは」を紹介
- ・クイズ「中国でお正月に食べる日本でおなじみの食べ物は何でしょう。」

(8) 工夫点や配慮点

色ぬりという単純な作業に、クイズや簡単な内容のものを載せ、1～6年生までが同じプリントを使い、家庭での話題になるように考える。

### 3 成果

1～6年生を対象に行った活動で、初めは深まりのない活動しかできないかと心配したが、学年に応じた活動ができ多文化を理解することに効果を上げることができた。

### 4 課題

外国の人や文化にほとんどふれることのない子どもたちが多くいるため、今後、学習機会の充実に努める必要がある。

テ　ー　マ　等	学　年
多文化共生教育のための校内環境整備等	中学校

## 1 ねらい

- (1) 日常の生活の中で、国際感覚をはぐくむよう環境を考える。
- (2) 国際理解を深めるための学習環境について理解する。
- (3) 日々の活動に多文化共生の視点を取り入れる。

## 2 活動内容

### (1) 掲示板や展示品

- ア 国際理解関連の掲示板の設置
- イ 展示物の工夫
- ウ 社会科教室  
国際的情報、それに関する生徒作品の掲示



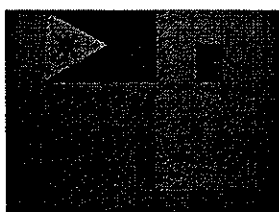
国際理解関連掲示板

### (2) 情報収集

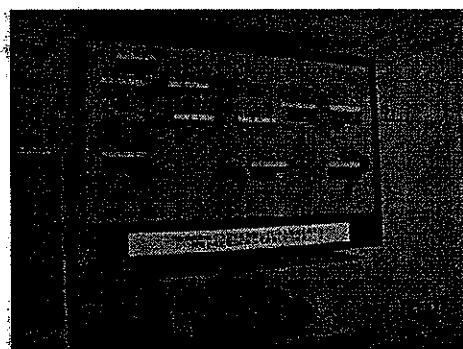
- ア コンピュータ室（インターネット）の活用
- イ 図書室にコンピュータ4台常設
- ウ 図書室の国際理解コーナーの設置

### (3) 多文化教室

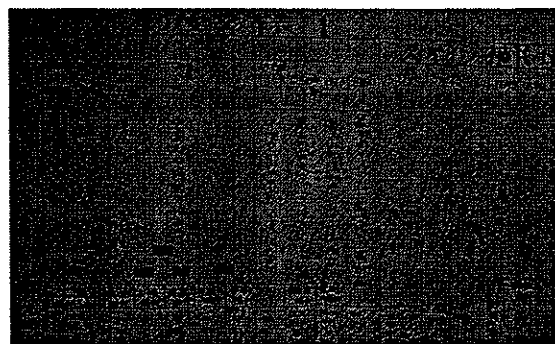
- ア 学習資料の充実
- イ 異文化理解のための掲示
- ウ 日本語学習教材
- エ 情報発信



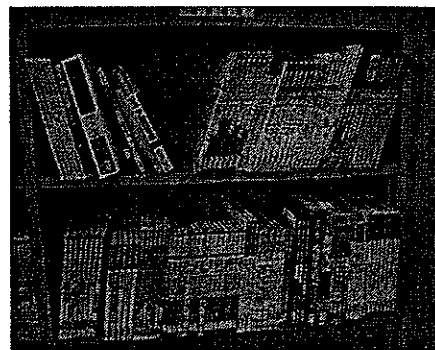
多文化教室の  
フィリピンコーナー



世界時計と南極の石



社会科教室の生徒作品の年表



図書室の国際理解コーナー

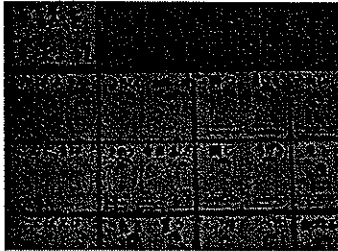
(4) 多文化共生の視点を取り入れた諸活動

- ア ユニセフ募金のためのリサイクルバザー (文化部)
- イ 自治的運営の球技大会
- ウ 生徒会スローガン作成、掲示
- エ ことばの教室の手話紹介
- オ 創作ダンス発表会
- カ ボランティア活動

総合的な学習の時間やボランティアサークルで積極的に取り入れている。



体育大会スローガン



ことばの教室前掲示板



生徒会主催球技大会



ボランティア体験(絵手紙)

(5) その他

- ア 学校放送 流す音楽の選定の際、国の特徴的なものを紹介する(放送部)。
- イ 学校給食 外国料理メニューを取り入れる。



(6) 工夫と配慮点

- ア それぞれの活動と「多文化共生」とのつながりを説明する機会をふやす。 ボランティア体験(手作りおかし)
- イ 「外国人だから…」 「外国人のために…」ではなく、日常生活の中に「豊かに共生する心」が生かされていることに気づくよう配慮する。

3 成果

- (1) 掲示物等日常的に目にふれているので、自然に子どもたちに国際的なものごとに関心をもたせる効果がある。
- (2) 多文化共生の視点でものごとを見たり、多文化共生の取組を確かめたりすることに有効である。

4 課題

- (1) 新しい情報を提供し、多文化共生に関する関心を高めていくことが課題である。
- (2) 生徒が集まってきて活動することに意味があるので、多文化教室の活用機会を増やそう工夫したい。

テ ー マ 等	学年等
個に応じた指導 ～外国人生徒の日本語能力を高めるために～	中学校3年

## 1 ねらい

- (1) 日本語の語彙の学習や文章の読み取り、文章表現、口語による会話などの日本語理解を深める。
- (2) 日本語習得のための学習に対する関心や意欲を高め、自ら学ぼうとする態度をもつ。

## 2 活動内容

### (1) 国語（日本語）学習の方針

ア 日本語の語彙をふやす。

小学校6年の漢字の熟語の読み書きを目標とする。

イ 読書の習慣をつける。

ジャンル、言語にこだわらない。

ウ 日常の行動、心情を伝えるなど、日常生活に役立つ文章表現力を伸ばす。

エ 母語（フィリピン語）の伸長を図りながら、日本語能力の向上をめざす。

### (2) 教材の選定

ア 日本語の語彙を増やすために

「漢字検定6級～5級の熟語」

イ 文法及び語彙

「みんなの日本語」

ウ 読書（文章理解、思考力の伸長）

英語、日本語、フィリピン語の読み物

エ 日本語の読み取り、文章表現

「小学校中学年の道徳の副読本」

オ フィリピン語の日本語訳、日本語のフィリピン語訳

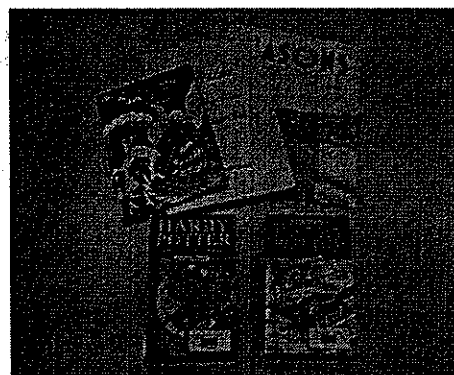
「フィリピンの小学校高学年の教科書〔日英併用〕」



日本語学習の教材



フィリピンの教科書



英語の読み物



### (3) 指導例

学 習 活 動	指導上の留意点
1 書き取りテストをする。 ・前時学習した、熟語の書き取りテストをする。 ・誤答を直して、練習する。	・前日学習した熟語10問を聞き取らせて、所定の用紙に書き取らせる。
2 新しい熟語の読み方と意味を理解する。 ・練習用紙に熟語を書き込み、理解に必要な事柄は記録する。 ・読み方を練習し、確認する。	・熟語の意味を英語やフィリピン語で確認させる。 ・読む練習を繰り返させ、耳で覚えられるようにする。 ・次回のテスト課題とする。
3 音読をする。 小学生用音読教材の詩を読み、日本語の発音に馴れる。	・リズム感のある詩を選び、すらすらと読めるように練習させる。 ・意味については、深入りはしない。
4 日本語の読み物を読み、感想を書く。 ・「フィンガーボール」を読む。 ・文章理解に必要な単語の意味を確認する。 ・あらすじを確認する。 ・感想を書く。	・黙読させ、意味の分からない言葉を抜き出させる。 ・文章のあらすじが理解できるまで、説明する。 ・感想に対して、質問を加え、文章に肉付けをさせる。 ・自分の書いた文章を読ませる。

### (4) 工夫点や配慮点

#### ア 社会科との合科的指導

社会科では、フィリピンの歴史を教材として取り入れた。国名の由来、国旗の意味、歴史上の人物、日本との関連、文化の特色などの学習を通して、日本語の語彙を増やすことや文章表現を行い、日本語学習に取り入れる。

#### イ フィリピン語、英語、日本語表現の比較

文法、活用、使い方（場面）など、比較しやすい文章表記を取り上げ、それぞれの言語への関心を高めさせる。指導者は、フィリピン語を知る機会でもあるので、一方的な教え込みにならず、お互いのコミュニケーションをはかりながら指導を行う。

## 3 成果

- (1) 当初は、日本語のみの国語の授業であったが、フィリピン語や英語を取り入れることで、一つの日本語の単語の意味をより深く理解し、身につけられるようになってきた。（書き取りの点数がよくなってきた）
- (2) 例えば「速い」と「早い」の区別や「理解する」と「分かる」のちがいなど、母語（フィリピン語）との対応がうまくいく場合とそうでない場合があり、言語学習のおもしろさと難しさを味わうことができた。

## 4 課題

- (1) 本人の興味・関心と日本語理解のレベルに適するような読み物を見つけるのが難しく、読書の習慣がつきにくい。また、フィリピン語の読み物が手に入りにくい。
- (2) 母語で理解していない学習言語を日本語で理解するのに、非常に時間がかかる。
- (3) 継続して、意欲をもって積極的に学習するためには、将来の展望をもてるようにすることが大切であり、そのことが大きな課題である。

## 子ども多文化共生フロンティア校実践事例集作成委員一覧

### 1 子ども多文化共生フロンティア校

番号	所属	職名	氏名
1	神戸市立御蔵小学校	教諭	富本水子
2	尼崎市立南武庫之荘中学校	教諭	久保田泉
3	伊丹市立昆陽里小学校	教諭	高木伸佳
4	播磨町立播磨南中学校	教諭	吉田孝行
5	三木市立星陽中学校	教諭	新井智明
6	姫路市立東中学校	教諭	唐木香苗
7	たつの市立龍野西中学校	教諭	中川敏美
8	豊岡市立日高小学校	教諭	榎本章乃
9	丹波市立青垣中学校	教諭	吉見典彦
10	南あわじ市立南淡中学校	教諭	田端幸子

※ 本資料は、平成16年度～18年度の子ども多文化共生フロンティア校での取組をふまえ、平成18年度子ども多文化共生フロンティア校連絡会での協議に基づき、作成したものです。

(問い合わせ先) 兵庫県教育委員会事務局人権教育課 〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 電話 078-362-3793 (直通) FAX 078-362-4294
--------------------------------------------------------------------------------------------------------